

THE CIVILIZATION
BLASTER



絶園のテンペスト

原作 城平京
構成 左有秀
作画 彩崎廉

2

THE CIVILIZATION BLASTER



GC

絶園のテンペスト
THE CIVILIZATION BLASTER

2

原作 城平京
構成 左有秀
作画 彩崎廉

城平京
左有秀
彩崎廉

SG

0960



9784757529359



1929979004385

ISBN978-4-7575-2935-9

C9979 ¥438E

雑誌48122-45

定価：本体438円 + 税

SQUARE ENIX.

絶園のテンペスト

THE CIVILIZATION BLASTER



彩崎 廉

高校生の主人公二人に比べ、自分はバスケばかりやってた
バリバリの体育会系でした。
球技大会でクラスの応援団長、文化祭で総司会、
バンドをやって「おめーら盛り上がりだてんのかあー！」とか叫んでた
アクティブ人間だったのに、
今じゃただのネガティブ引きこもり人間です。
叫ぶといったら締め切り前に「いっそオレを殺せよ！」です。

GC

ガンガンコミックス



絶園のテンバースト

2

絶園のテンバースト

原作 城平京
構成 左有秀
作画 彩崎廉

50

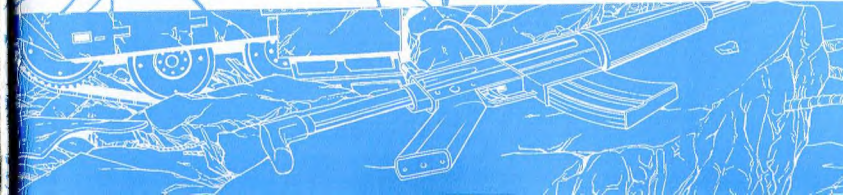
SQUARE ENIX

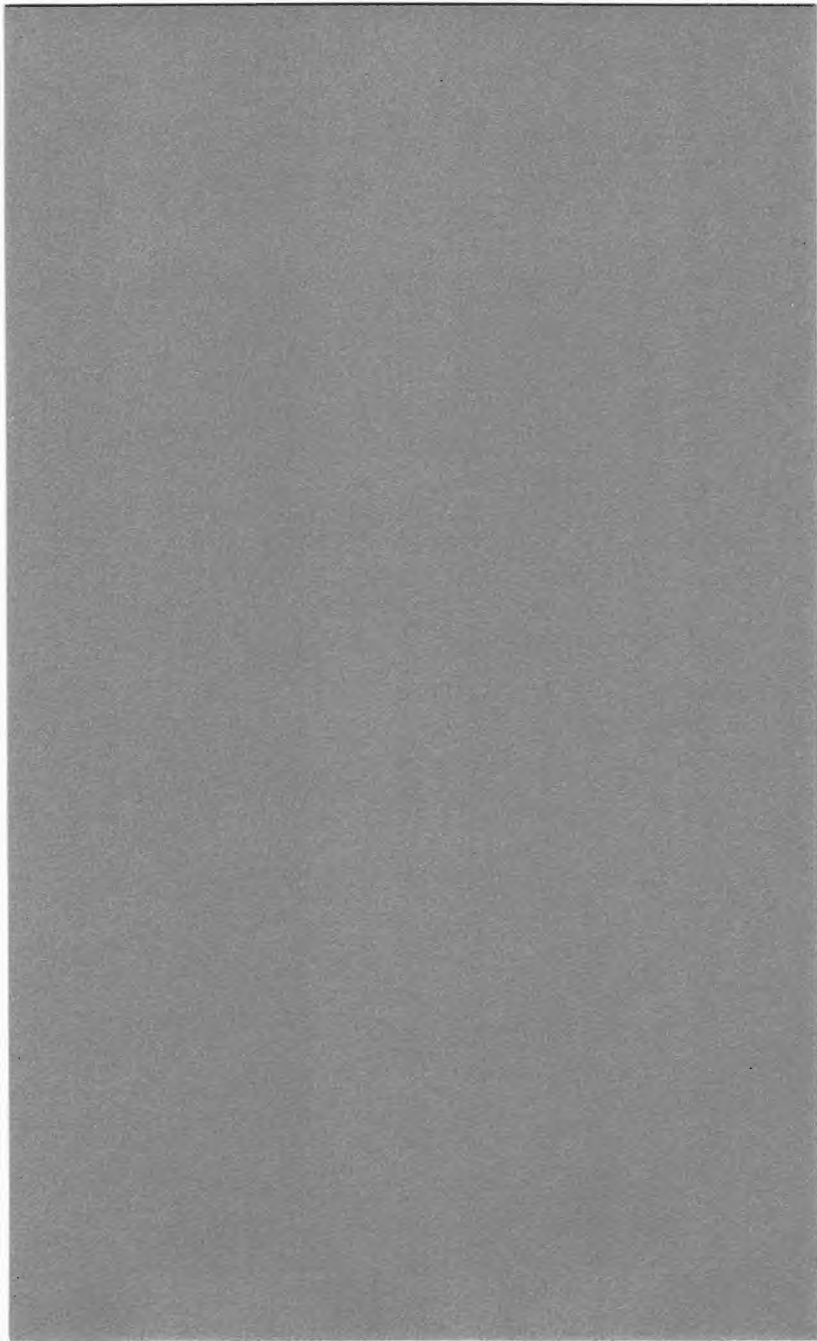
GC

ガンガンコミックス



~ THE CIVILIZATION BLASTER ~





★この作品はフィクションです。実在の人物・
団体・事件などには、いっさい関係ありません。

2

絶園のテンペスト

THE CIVILIZATION BLASTER

原作 城平京
構成 左有秀
作画 彩崎廉



CONTENTS

第五話／矛盾する、頭蓋

〇〇五

第六話／どうなりたいかは、わからない

〇五一

第七話／どうともなれ、と兄は言う

〇九九

第八話／魔女を断つ、時間

一四五

第九話／『テンペスト』

一九七

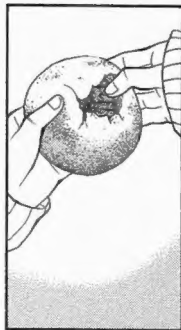


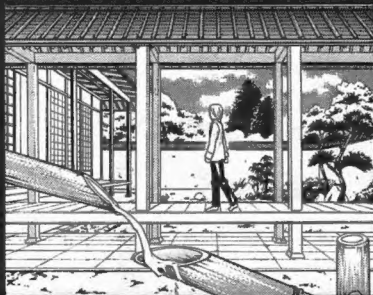
絶園のテンペスト 2

—THE CIVILIZATION BLASTER—

だいごわ むじゅん すがい
第五話:矛盾する、頭蓋







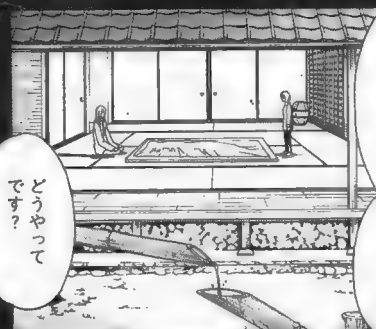




何の
ご用です？



姫様を
亡きものにした



どうやって
です？

「はじまりの樹」の
加護を最大限に
受ける

葉風
ちゃんを？



カコッ



そもそも
彼女を殺すなんて
理を僞しすぎです

反動で
何が起るか…

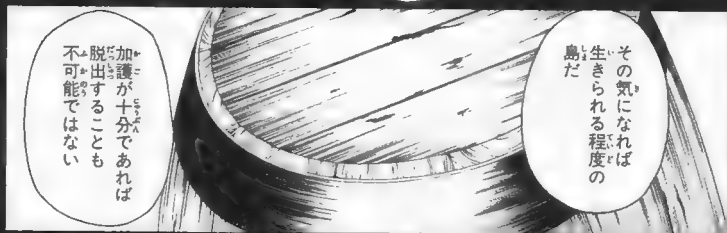
姫様を
薬で眠らせ

文明とほとんど
つながらない
孤島に

あの樽に入れて
置き去りにした



賭けたったよ



その気になれば
生きられる程度の
島だ

加護が十分であれば
脱出することも
不可能ではない



なら加護にも
隙があるかもしれん

そこに賭けた



だが
「はじまりの樹」は

まだ完全に
目覚めてはいない

自然の理が
彼女を殺すか
どうか

サイコロを
振りましたか

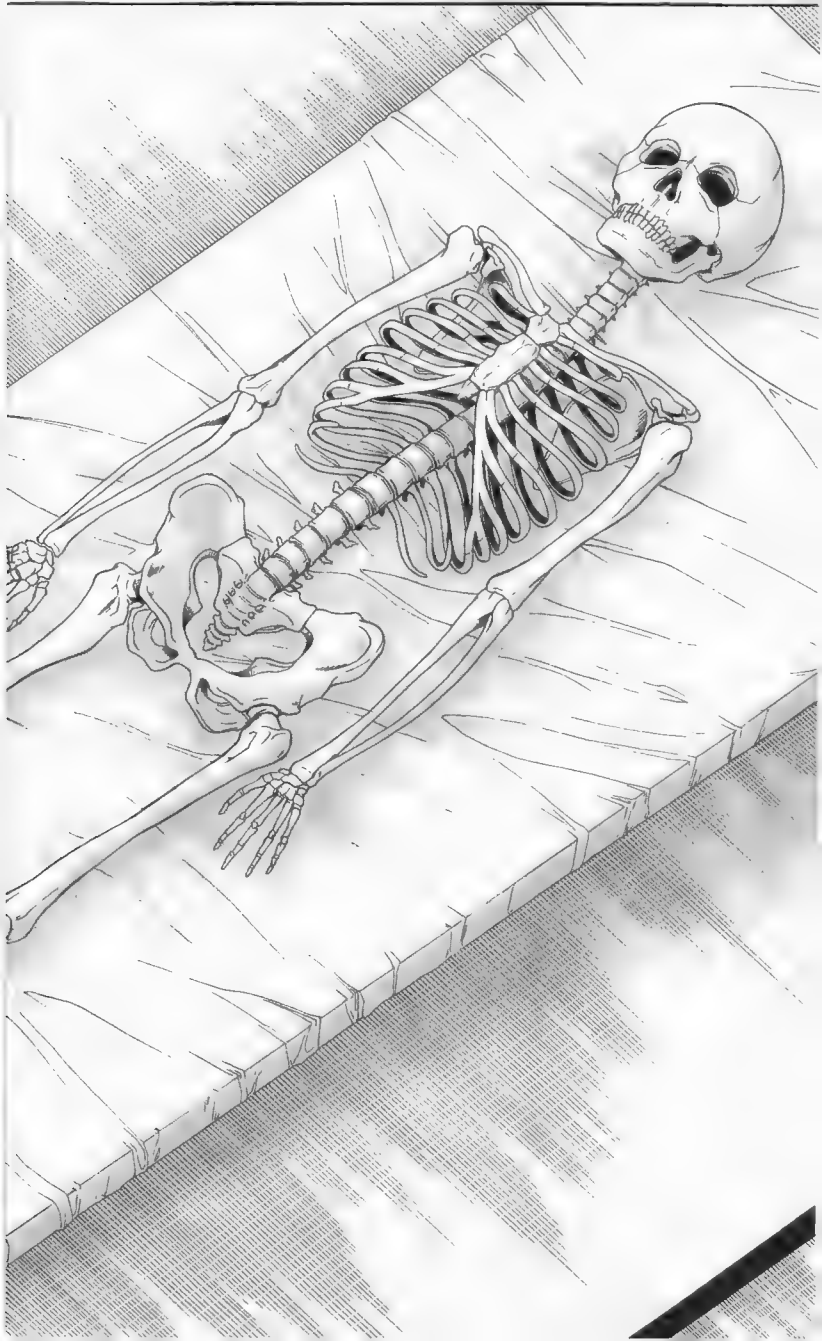
確かに
それは

あなたが理を
傷めたことにならない
かもしれません

クッ

昨日

樽とともに
島から遺体を
回収した





鳥や磯の生物に
食われたのか

姫様はすでに
骨と化していたよ



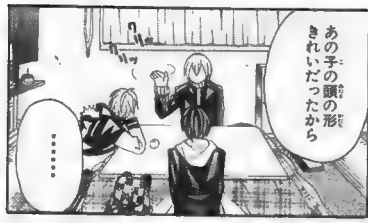


遺体^{いたたい}を
確認^{かくにん}したって

骨^{ほね}だけかよ



よくそれで
葉風^{はぶき}と確信^{かくしん}
できたな？



あの子^この頭^{かぶ}の形^{かたち}
きれいだったから



頭蓋骨^{ずがいこつ}がね

葉風^{はぶき}ちゃん
だったんだよ



でも

それだけ
って…



これは
葉風ちゃんだったって



でも

直感的に
わかった

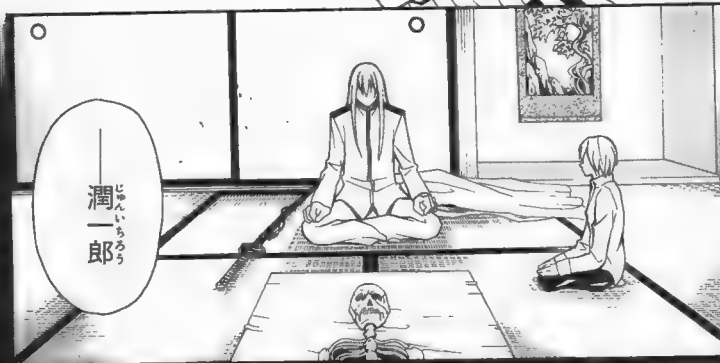


それで

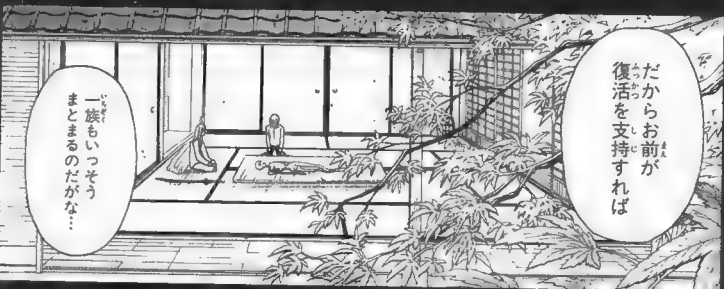
その後
どうなったんですか？



……



潤一郎
じゅんいちろう





ほんとに
本当に



葉風ちゃんを
殺したんですか？



嘘をついて
どうする？



やはり後で
何が起ころか
読み切れないのに

直接殺さないと
いえ



いえ

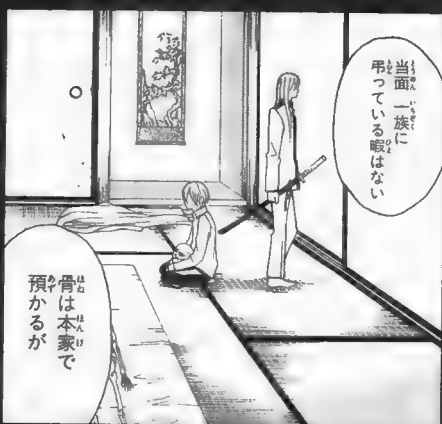
あなたらしく
ない手をとった
ものだ



姫様の
供養を頼む

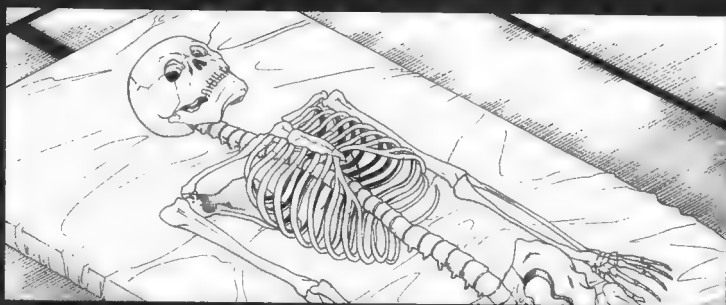


誰も姫様の死を
悼まぬのも
理を外れていよう



当面一族に
吊っている暇はない

骨は本家で
預かるが







孤島に閉じ込められてもどうにかして外部とつながれそうなんだけど

瓶にメッセージを詰めて流すとか成功しそうなものなんだけど…



同感だ

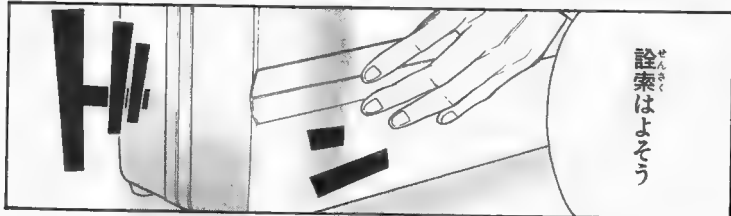
特に「はじまりの樹」の加護がある予だ

相当な強運にも恵まれている



当たり…!

鋭い!



詮索はよそう

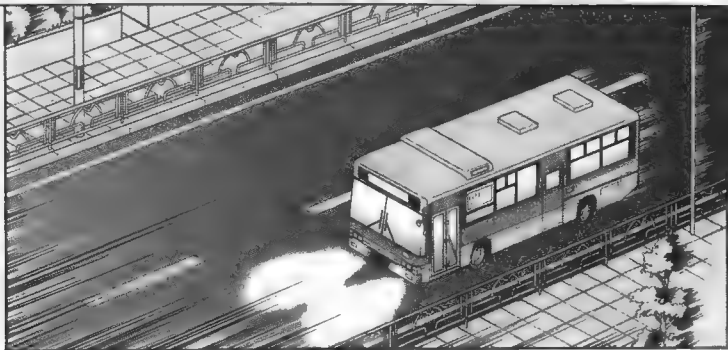


僕は魔具を預かるよう頼まれただけだ

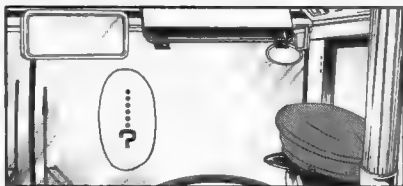
何をすべきかはきみ達の方がわかってるんだろう













わからん



じゃあその
洞兄さんが

お前が死んで
骨になってるって
言っているのは
どういうわけだ？



洞兄さんが
嘘をついて
いないなら

左門がわざわざ
偽物の骨まで用意して
ひと芝居打ったことになる

なら
その理由は？



なのに骨を
私のものとした

なぜだ？



そもそも洞兄さんが
骨を私のものと
認めたのも信じがたい

勸の鋭い人だし
軽率な判断を
する人でもない



だまして
どうすんだ

もし
僕らが

素風さんが
生きてると思つて
助けようとしてたら
一氣にやる氣失うだろ？



単純に
考えれば

海一郎さんが左門と
手を組んで僕らを
だまそうとしている？



牽制として
効果はある



それに
素風が生きてる
証はある

一発ではれる
嘘をつくか？



あいつが左門と
組んでたら
牽制どころか

その場でオレらを
捕まえたよとしてるよ



にしても
嘘としちや
苦しいぞ



リアルタイムに
その人形でつながってる
のを知らなかつたら？



…なら



左門と
彌一郎さんは
組んでなくて

左門はただ一族全体に
兼風さんが死んでると
思わせたかったとかは？



実質「兼風が
死んでいる」って根拠は
あいつの証言だけだ

あいつと初対面の
人間がそれをあつまり
信じると思うか？



思わせて
どしてる



特に彌兄さんほどの
人を納得させられるとは
思わんだろう



だいたい堅実な
左門が偽造した
骨くらいで

一族の者が
私の死を信じるとは
考えそうにない

でもあいつは
その頭蓋骨
一つで

お前が死んだと
確信してたぞ

だから

それが
わからん

そうなるのは

だったらこうして
話してお前の頭に
骨はないのか？

それともお前
幽霊か何か？

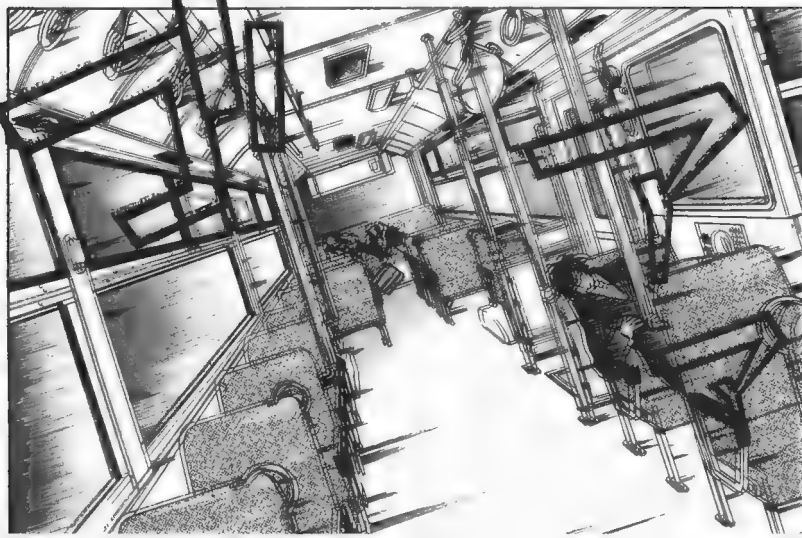
それが本当に
私の頭蓋骨だった時
くらいだ

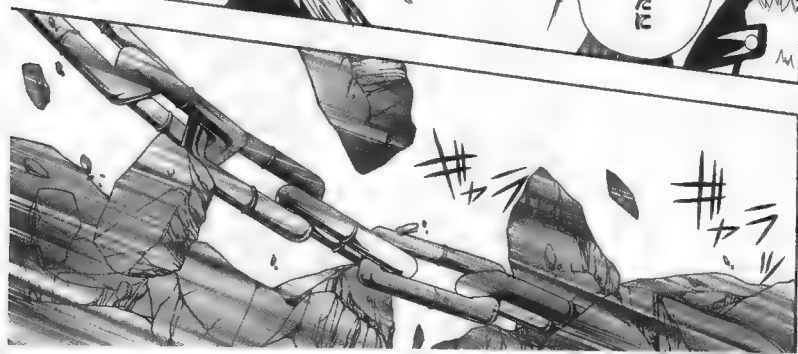
幽霊など
この世におらん

そうだな

そんな不合理な
もんはいねえな

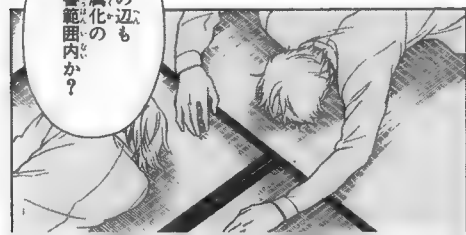
…それを言うなら
この全部が
不合理だよ

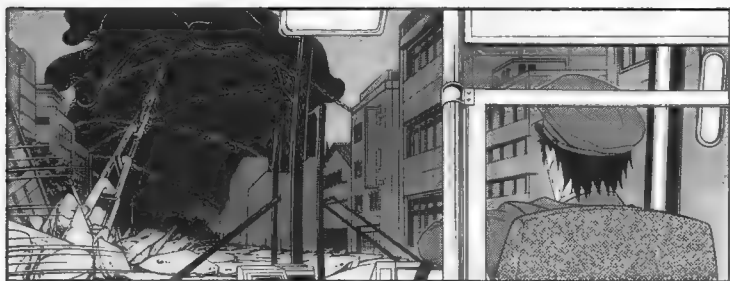


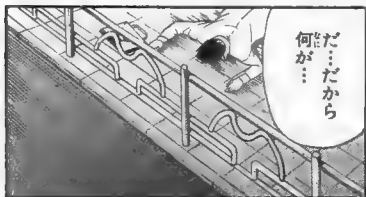


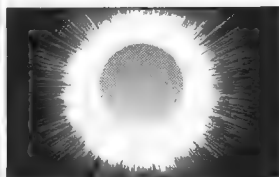
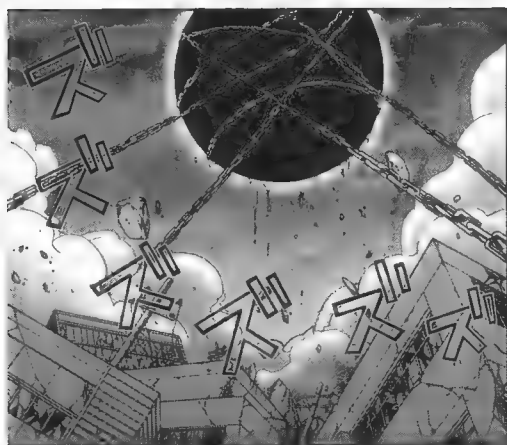






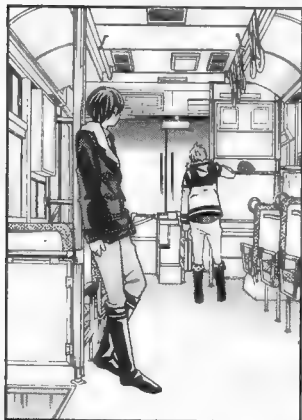


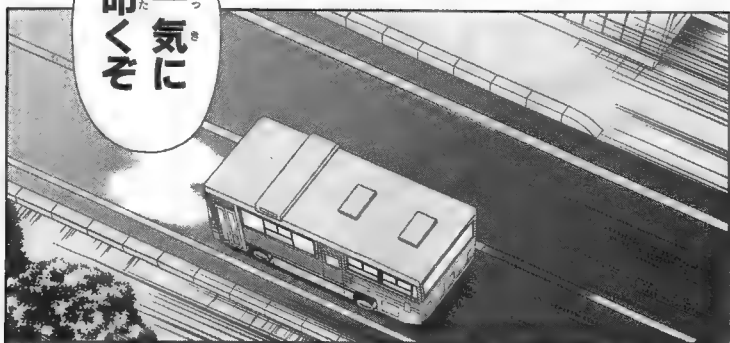
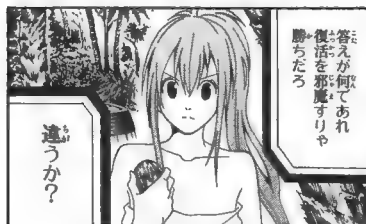


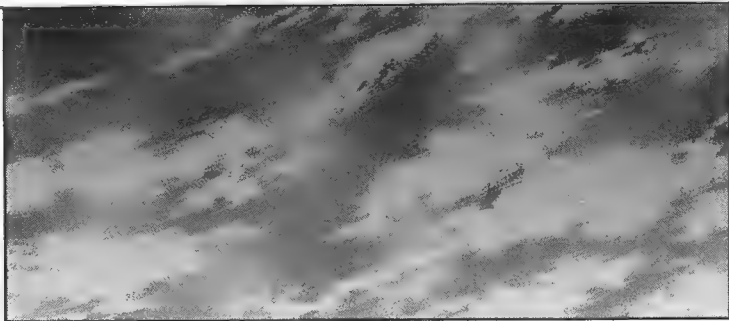


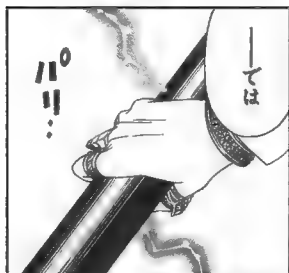


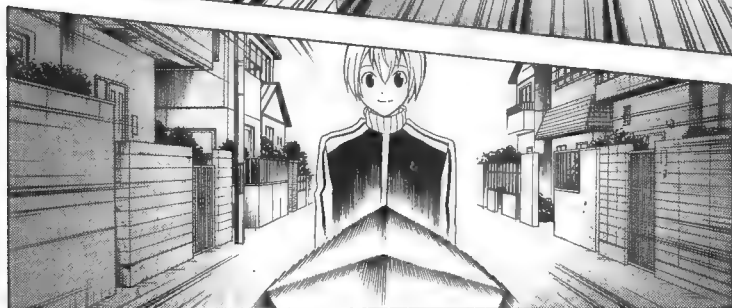
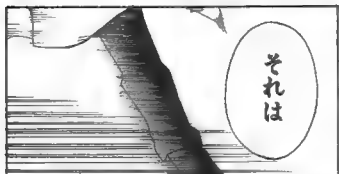


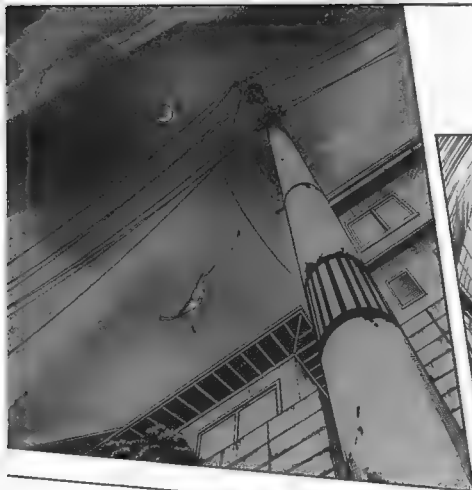


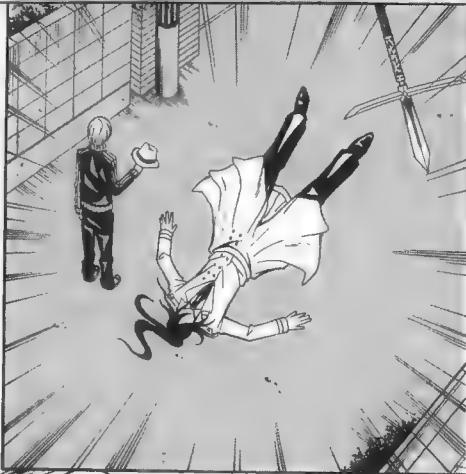






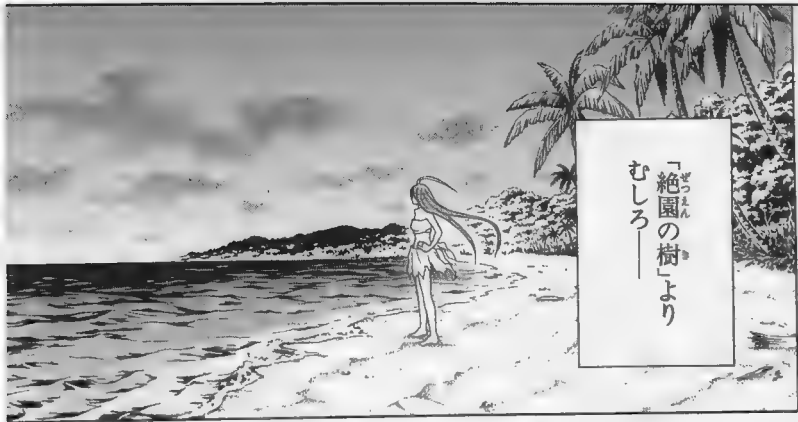




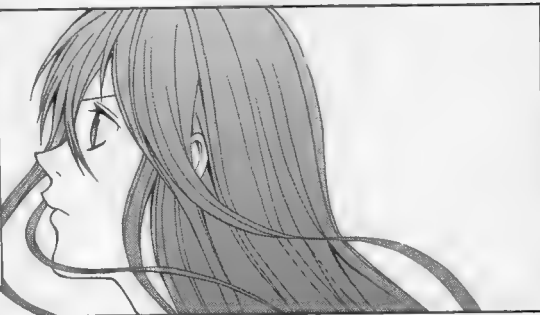








「絶園^{ぜつえん}の樹^き」より
むしろ――



葉風^{はかぜ}ちゃんと
「はじまりの樹^き」の
方^{はう}が



この世^よを
崩壊^{ほうかい}させかねない
ことを

THE CIVILIZATION-BLASTER

だいろくわ
第六話：どうなりたいかは、わからない





マヒロ

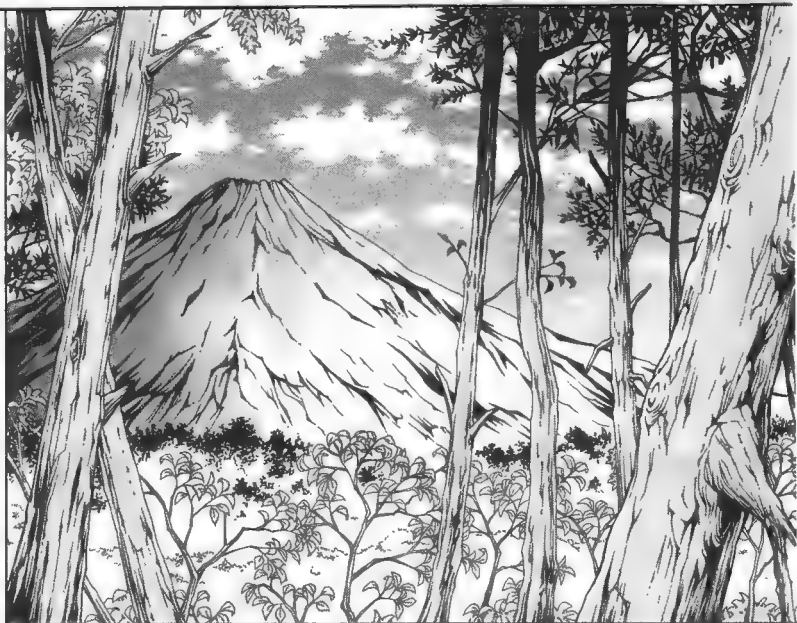


あなたは
私と

どうなりたいん
ですか？





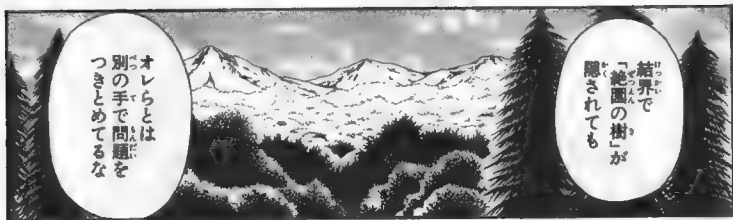




辺りの
様子は？

どうも

大規模に
軍が動いてる



結界で
「絶園の樹」が
隠されても

オレらとは
別の手で問題を
つきとめてるな



ふむ

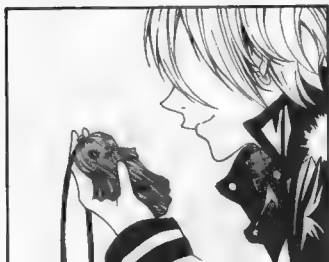
魔法使い相手に
戦争しても
始める気か？



ここに来るまでも
けっこうな警戒態勢で
人を締め出してるぞ

立入禁止

立入禁止

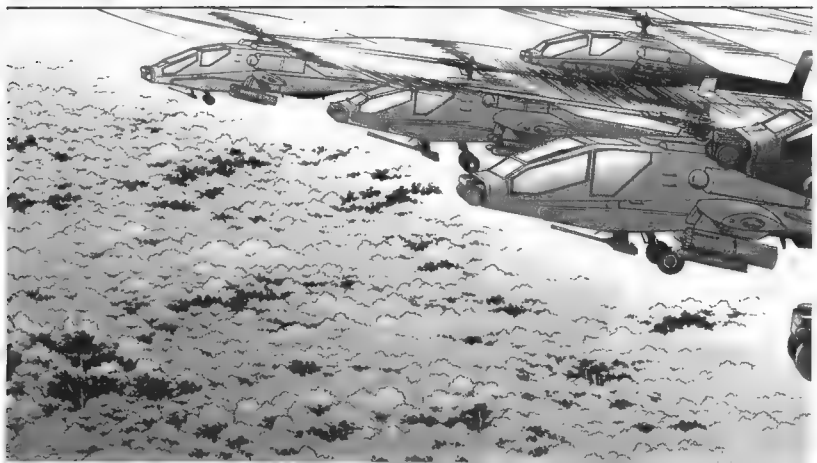
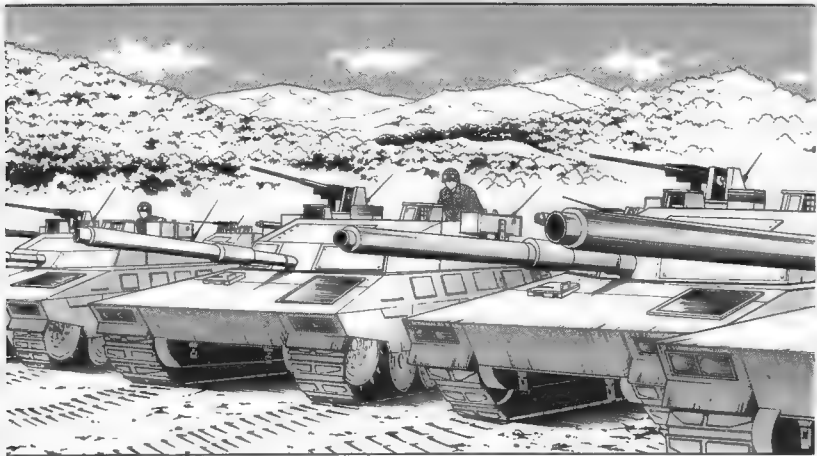




さつき見かけた
装備からすると



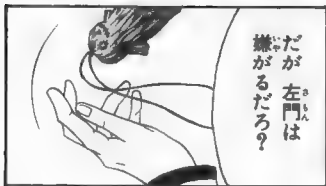
その気
だろうな





案外政府も
あなどれん

対応としては
はや過ぎるほどか



だが左門は
嫌がるだろう？



かといって
通常兵器で結界を
突き破るには

何週間かかるか
しれんだろうが



ああ

結界には
成長した「絶園の樹」を
安定させる効果も
持たせてあるはずだ





.....

無事なん
だろうよ

前に魔具を
郵便で送ってたし



まあ
.....

だったら
だったで

オレなんか
付き合わず

彼女のそばに
いりやいいものを...

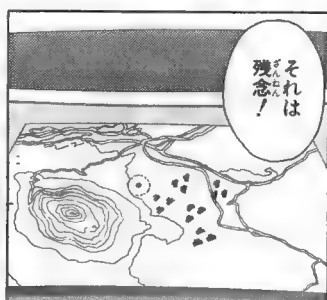


しかし

あやつも
よくわからん



何を企むでも
ないだろうが...





殺傷能力は
ないけど

足止めには
効果的だから



助かります

ヤ
ヤ
ガ
サ



スタン
グレネード

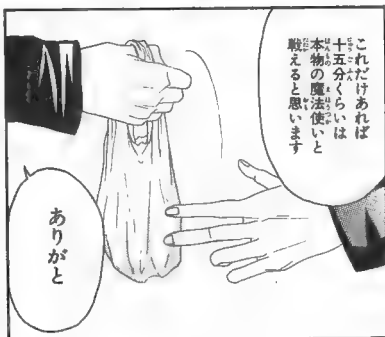
使わずに
終わるのが
一番ですが



魔具です



使い方にも
よるでしょうが――



これだけあれば
十五分くらいは
本物の魔法使いと
戦えると思います

ありがと



前にもらったので
扱いは慣れたから

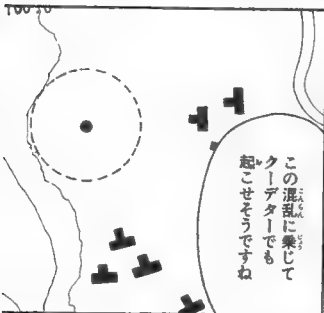
役に立つわ



よく一晩で
あれだけの軍を
動かしましたね？



——でも



この混乱に乗じて
クーデターでも
起こせそうですね



キミがメールで
まめに情報
くれてたからね

状況が正確に
把握できてれば
前もって準備も
できるわよ



それは
ともかく



冗談

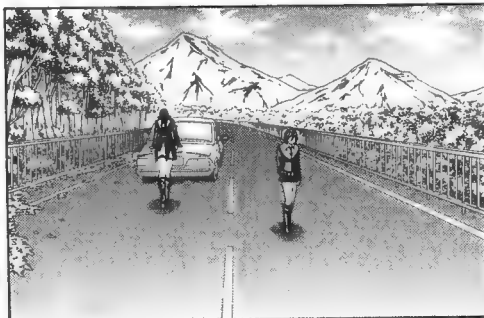
魔法使いの相手
で精一杯よ

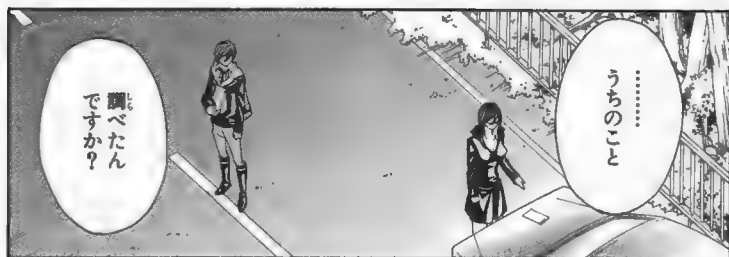


あら

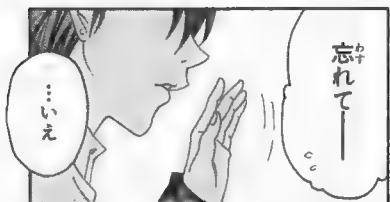
本当に起こし
てるかもよ？



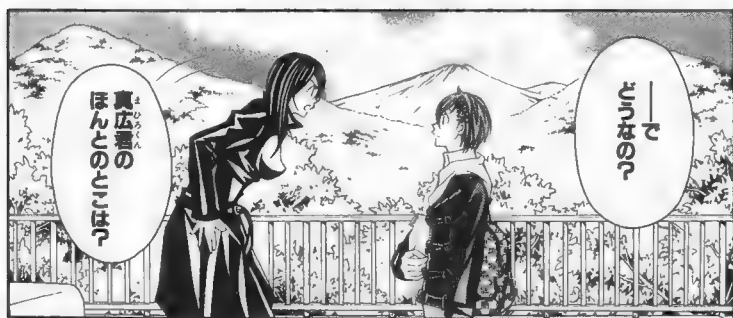


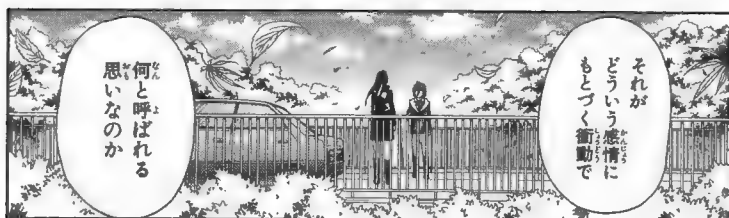






きょうだい
兄妹だいっていつでも
血ちはつながって
なかったしさ





ほんとう
本当にそれは

ごく
ありきたりな



誰かが持つ
かんじよう
感情で……





マヒロ

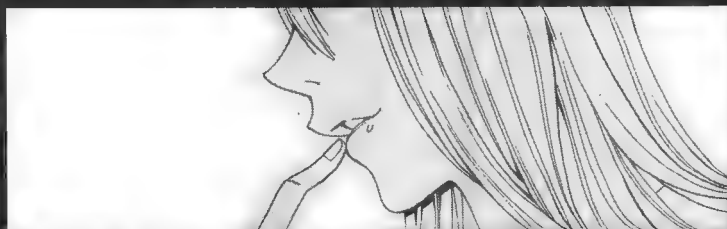
あなたは私に
こう尋ねて
いるのですね

「お前はオレの
女になれるのか」

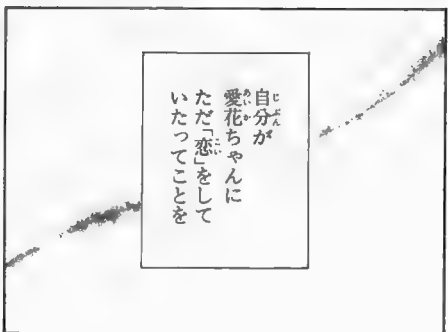
と











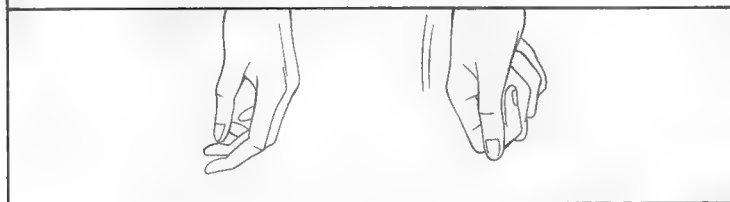


あの真広が

愛花ちゃんには
触れるのさえ
緊張していた

そばにいても

必ず
どうしていいか
戸惑っていた



愛花ちゃんも
口では何と言っている

真広を嫌っては
いなかったろう

出会う方が違えば
あるいは二人は





自分の感情に
気付いたらうか



もし愛花ちゃんが
生きていたら
僕らはどうなつたらう

真広は僕と
愛花ちゃんのこと
に
気付いたらうか



本当に
どうなつて――

そして
気付いていれば

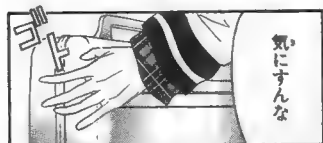


悪い
待たせた



なあ
吉野

何だ？





ごめん

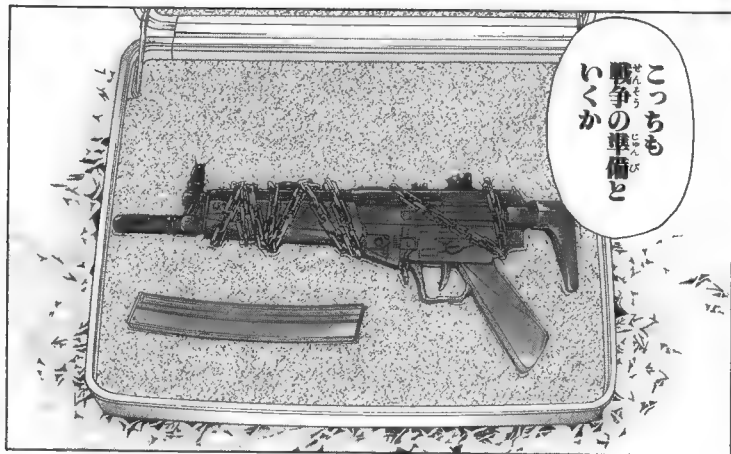


さすがに今は
言えないって

噂も何も
僕がその
彼女なんだけど…

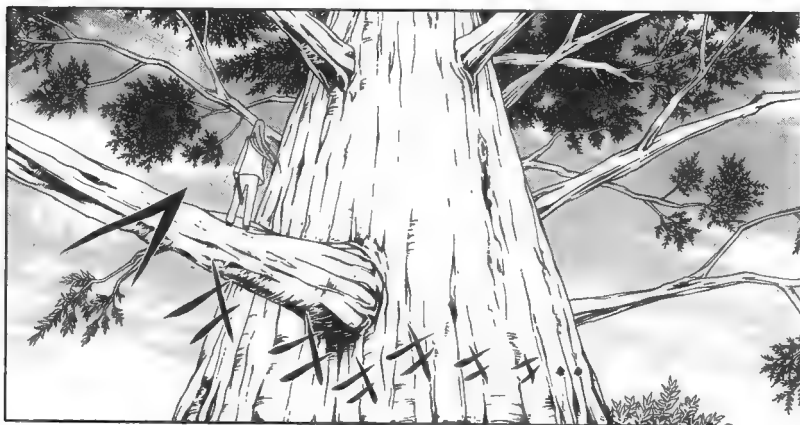
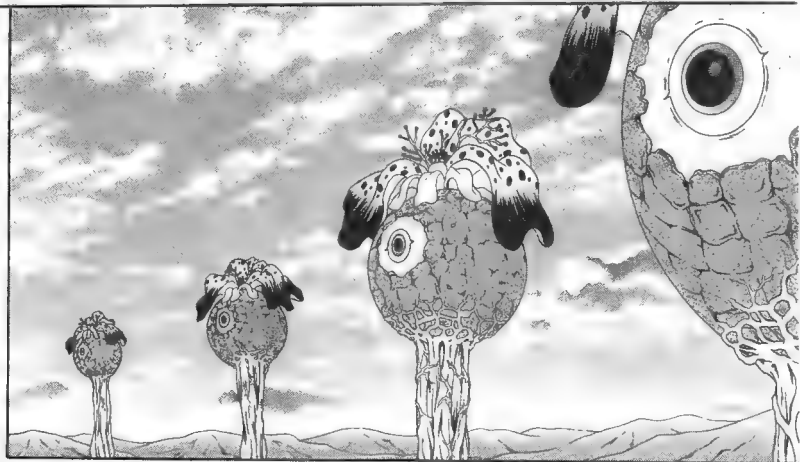


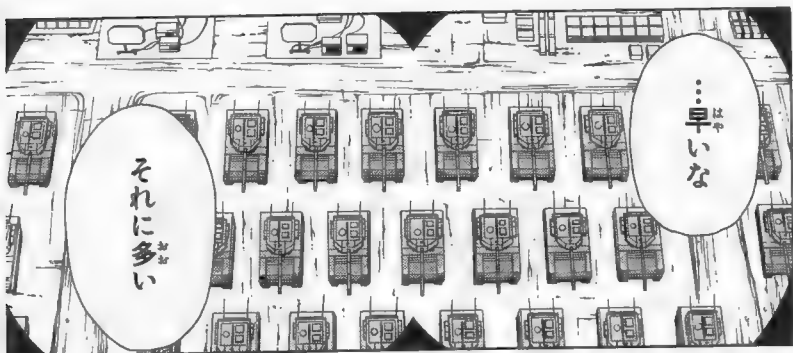
じゃあ



こつちも
戦争の準備と
いくか







…早い^{はや}な

それに多い^{おおい}



それとも
これも

「はじまりの樹」が
もたらす
姫様の強運か



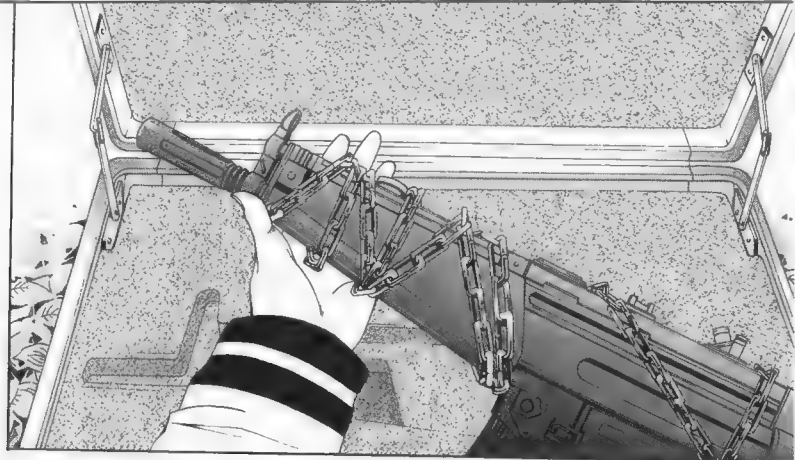
本格的な攻勢^{ほんかくてきこうせい}は
あつてもまだ先と
思っていたが

政府^{せいふ}に切れ者^{きりもの}が
いたか



ならば
姫様^{ひめさま}

きょう
今日でその運^{うん}
つ
尽きさせましょう



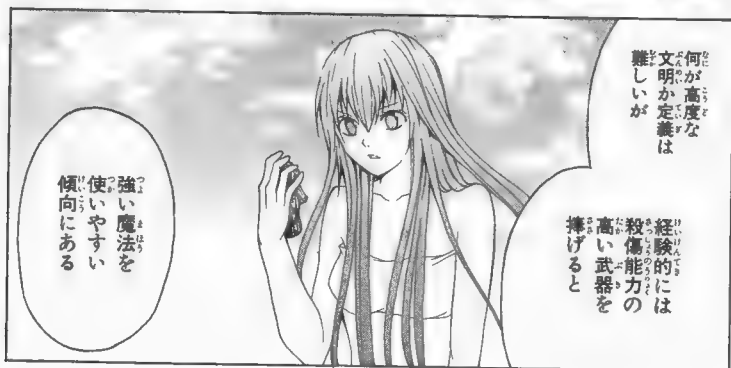
言つたであらう
鎖部の魔法は

高度な「文明の産物」を
「はしまりの樹」に
捧げるほど
強い魔法を使えると



——よう葉風

特性の魔具って
なんでこうがつちりした
武器なんだ？



何が高度な
文明か定義は
難しいが

経験的には
殺傷能力の
高い武器を
捧げると

強い魔法を
使いやすい
傾向にある

まあ
進んだ文明ほど

優れた武器を
持っているっていう
考え方はありますが…

この世の理を守る
「はじまりの樹」が

破壊的な武器を
望むって
矛盾してないか？

そうか？

「はじまりの樹」が
ことごとく兵器を
吸収し塵とすれば

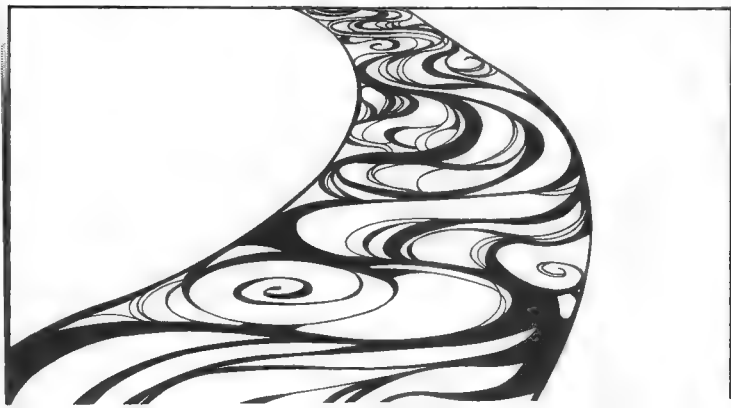
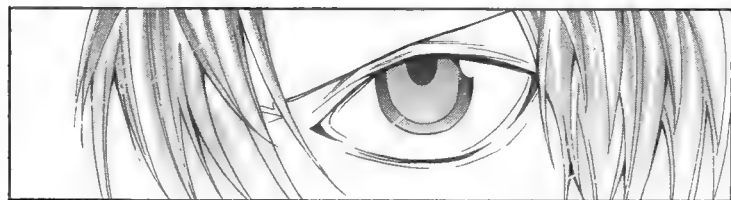
つまり戦争は
激減するであろう

世の安定は
いつそう守られると
思わんか？

そういう
発想もある…
…か？

世の安定か

オレにはどうでも
いいことだな



いまだに



いまだに
あの光景を
思い出すたび

何もかもが
疑わしくなる

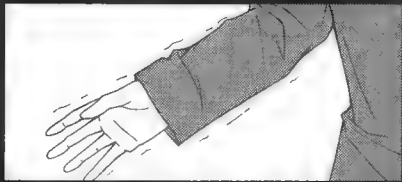


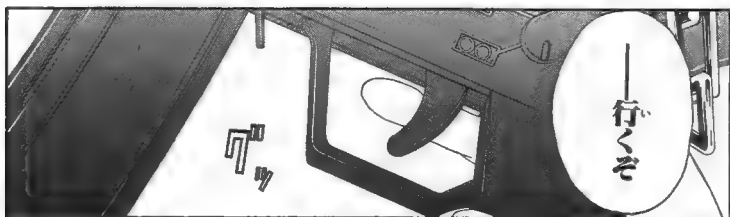
いったいなぜ
信じられるのか

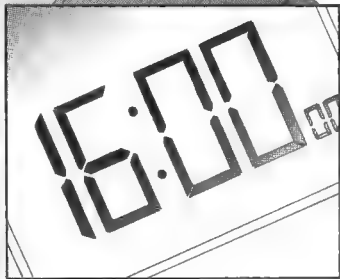
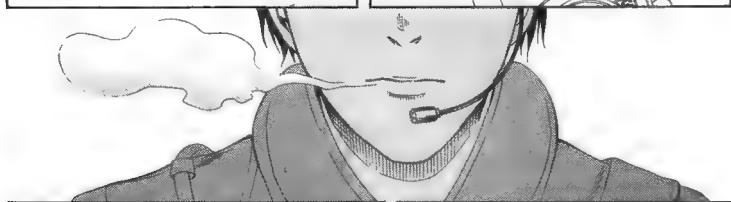
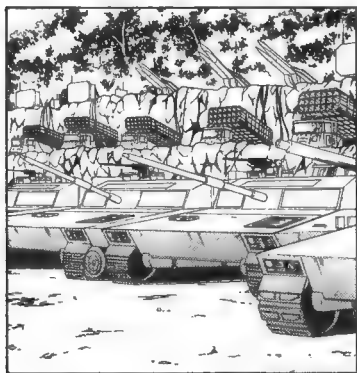


これで
愛^{あい}花^かが死^しんでいと



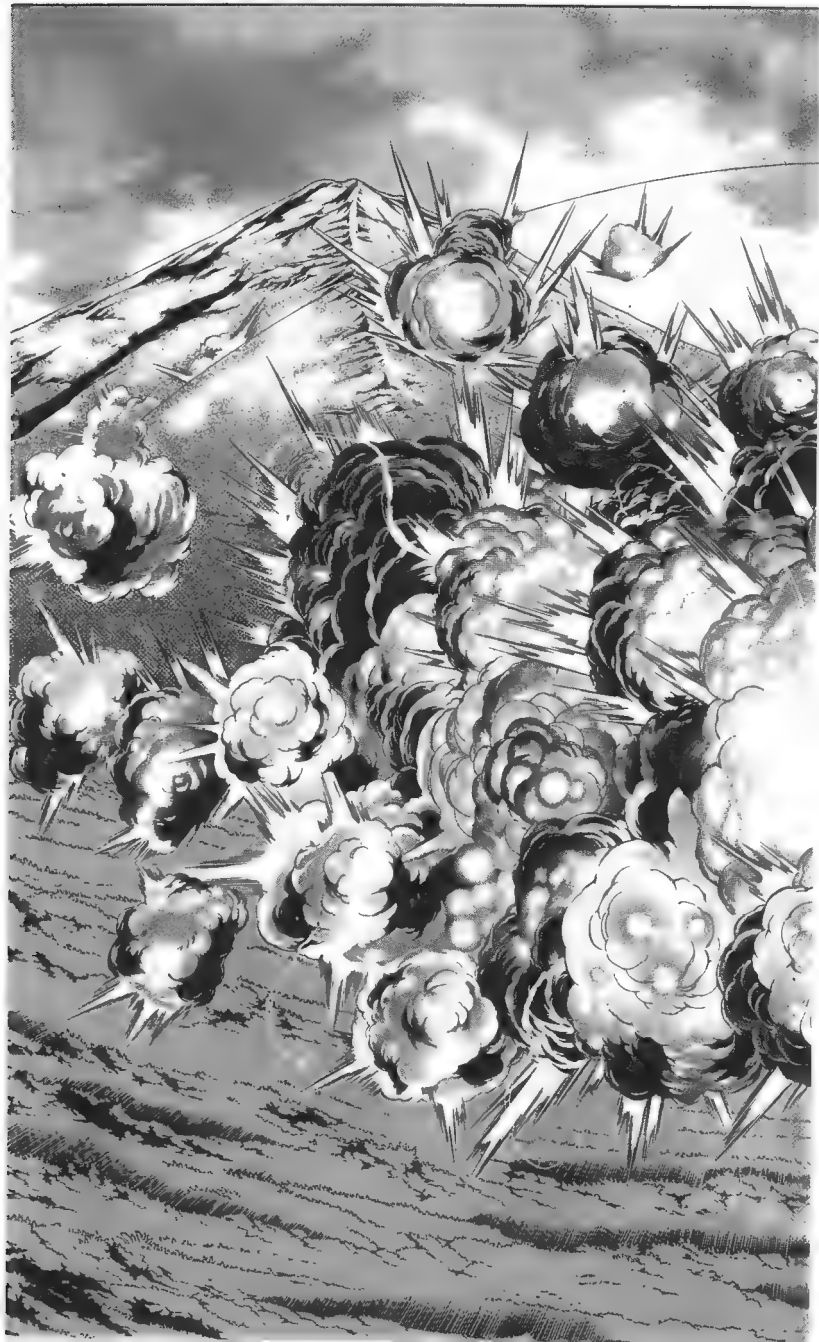












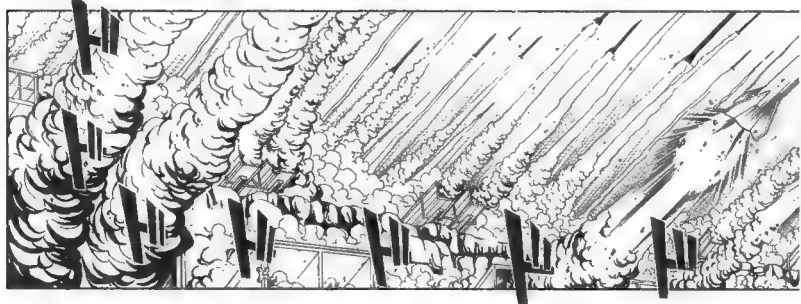


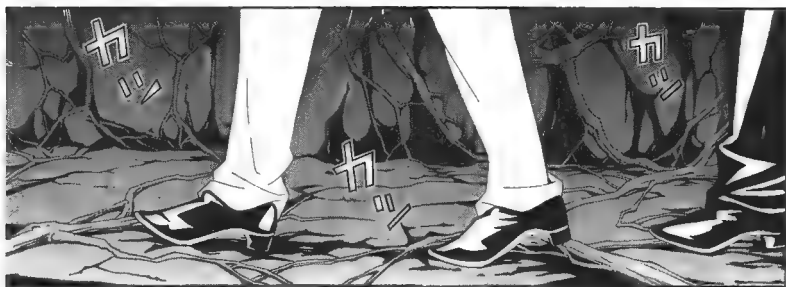
絶園のテンペスト

THE CIVILIZATION BLASTER

第七話：^{だい}どう^{なな}とも^わなれ、と^{あに}兄^いは言う









「絶園の樹」
の姿

もはや隠す
こともない！

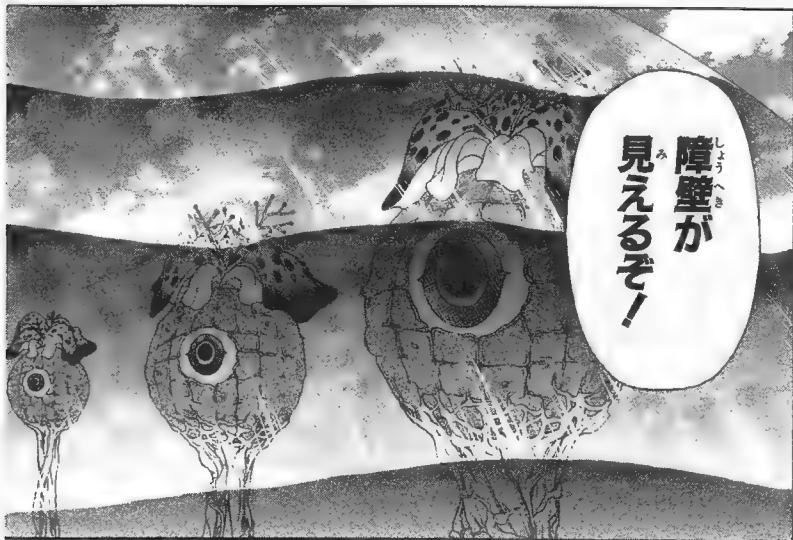


空間が…

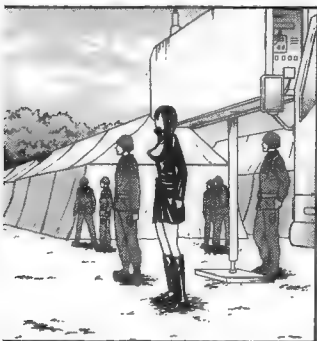
溶ける？



…何だ？



障壁が
見えるぞ！



「^{てき}敵」か…！

あれが



で
出たわね

「絶園の樹」
ぜつえん
……!!



結界を突き抜けるのに
他に魔具が
十ほど必要だ

用意しておけ



突き抜ければ
「絶園の樹」も
見えるであろう



もう
見えてるよ

結界の境界も
丸わかりだ

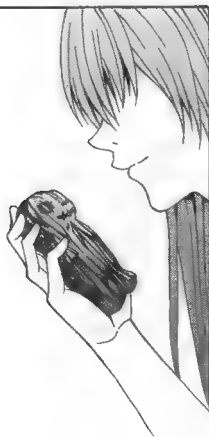


—それで
葉風さん



どこで
特製魔具を

発動させるん
ですか？



それは

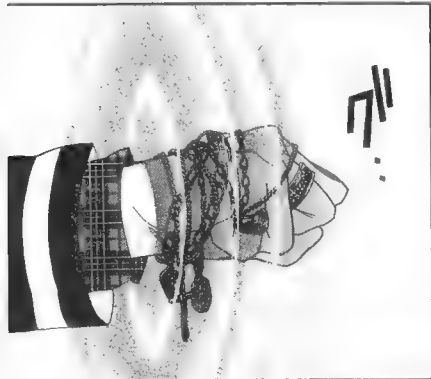
左門次第
だな

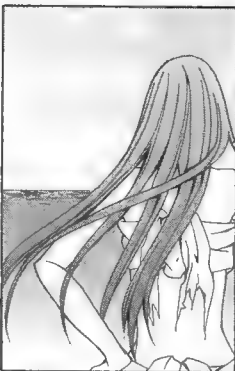
——
左門殿

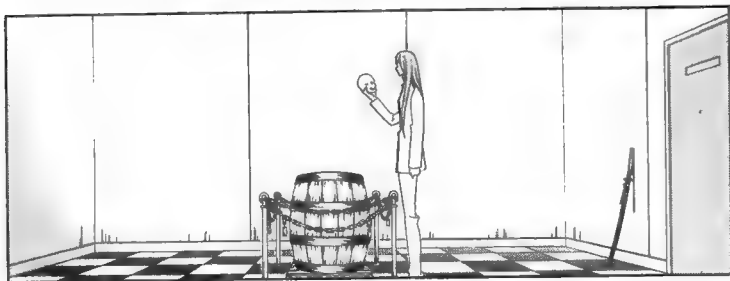
何者かが結界に干渉！
侵入を図っています！

来られましたか

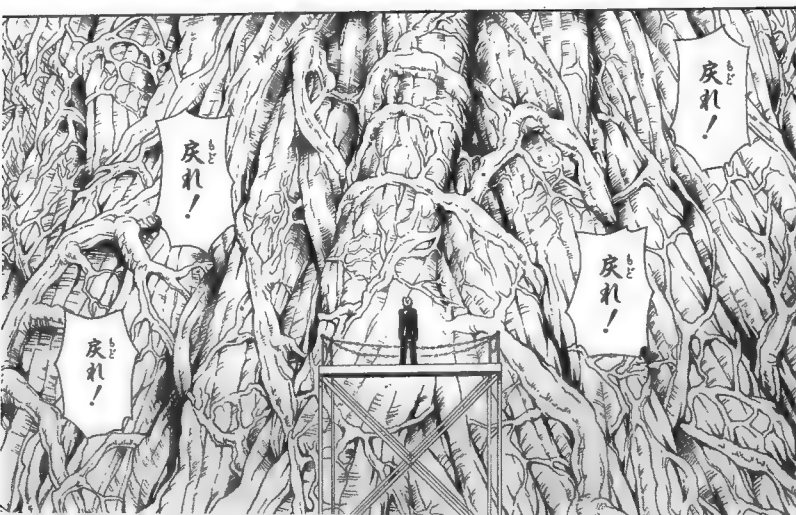
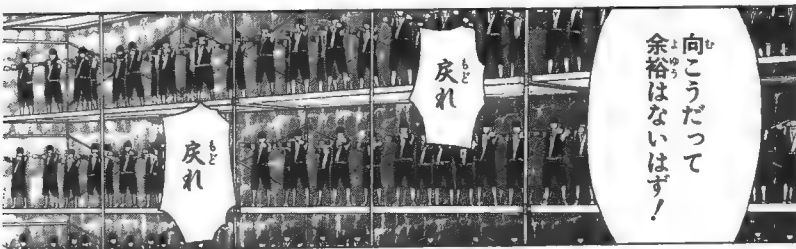














その間に
てきるだけ機式を
進めておくのだ！



今は外の攻撃を
無視しろ！

結界はまだ
安定している！



——とは
言っても…



想定以上の
攻勢だ

あまりに受けすぎれば
復活後の「絶園の樹」の
制御に支障が出る…！



だがまだ
反撃に出る
態勢にはない！



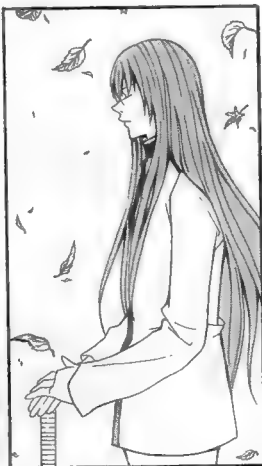
ズ
ッ

左門殿が
戻られるまで

現状を維持
するのだ…！







我が名は
鎖部左門

古き一族
鎖部に連なる者を
代表して今ここに
立っている



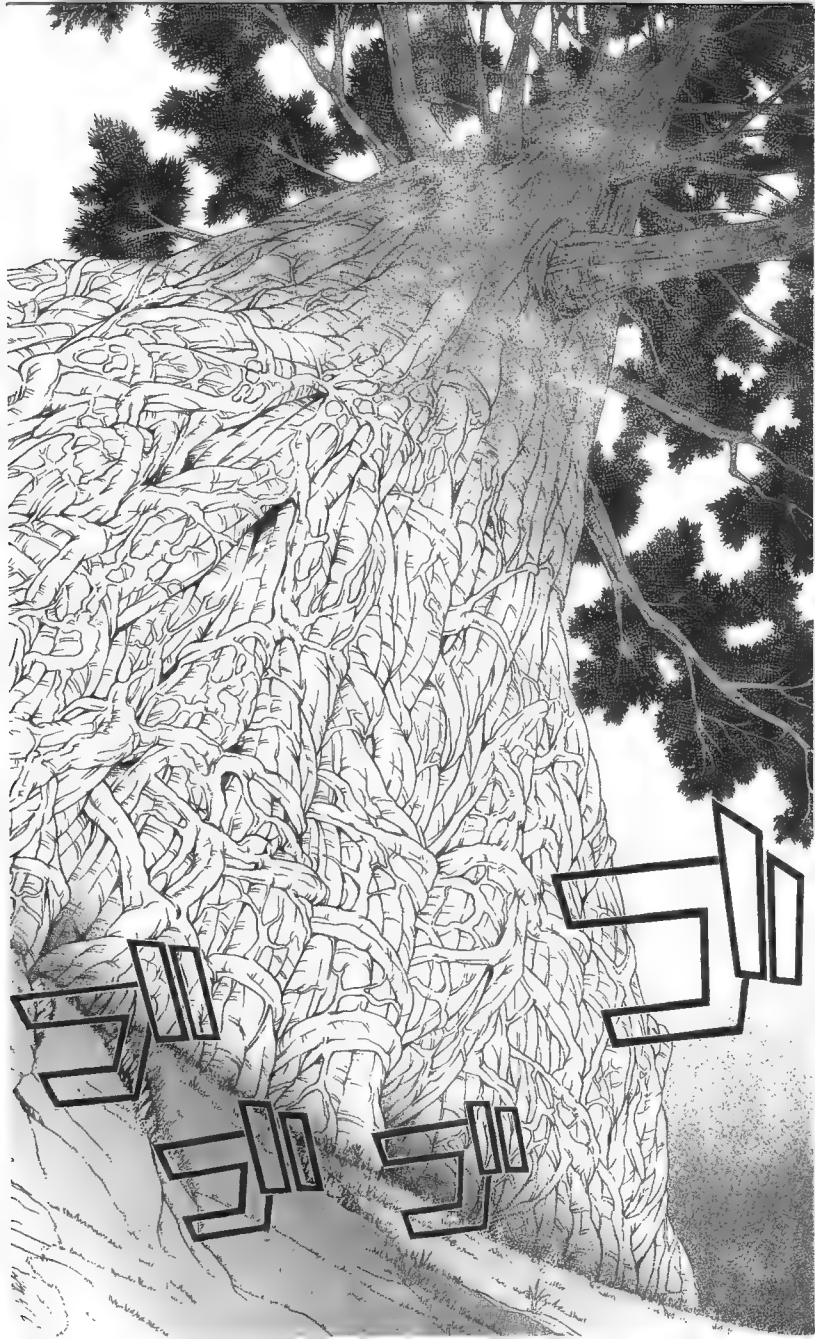
少年

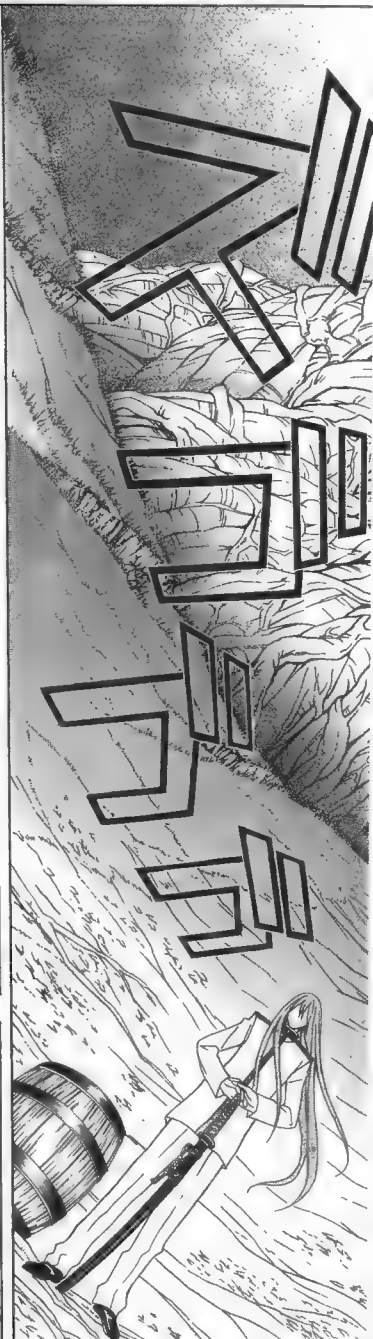
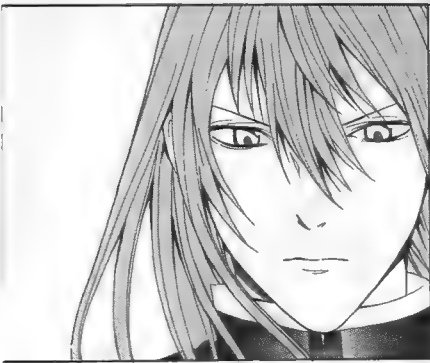


お前達に名乗る
名はあるか？

少年Aと
他一名でいさ

話があるのは…



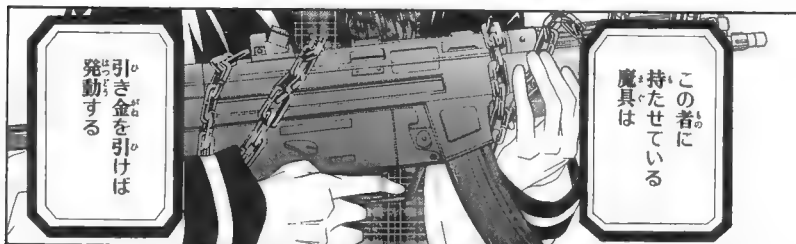




すでに
わかっていよう

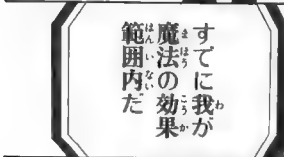


左門さもん



引き金を引けば
発動する

この者に
持たせている
魔具は



すでに我が
魔法の効果
範囲内だ



そうなりま
しょうな



すくさま
「絶園の樹」の制御は狂い
結界は破れ

私でなければ
收拾できない
破壊の嵐が一带に
発生しよう

そうなれば
貴様は

私をそこに
戻すしかない

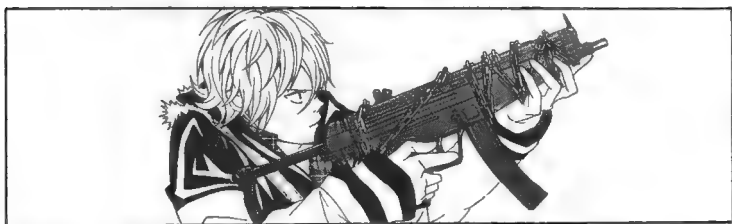
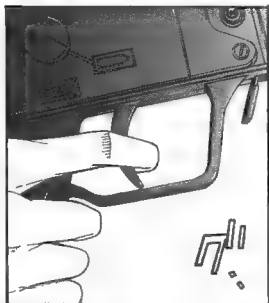
そして私が戻れば
収拾がつくといえ

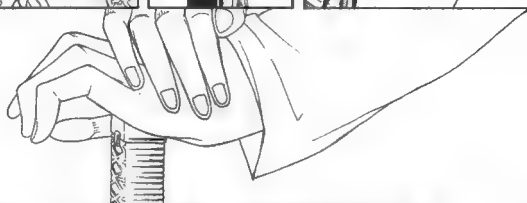
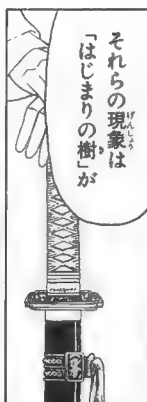
その富士さえ
消滅するほどの
破壊が広がるのは確実だ

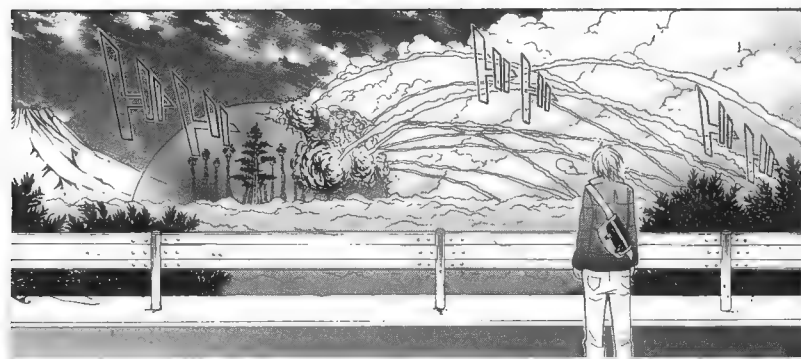
降伏しろ
左門

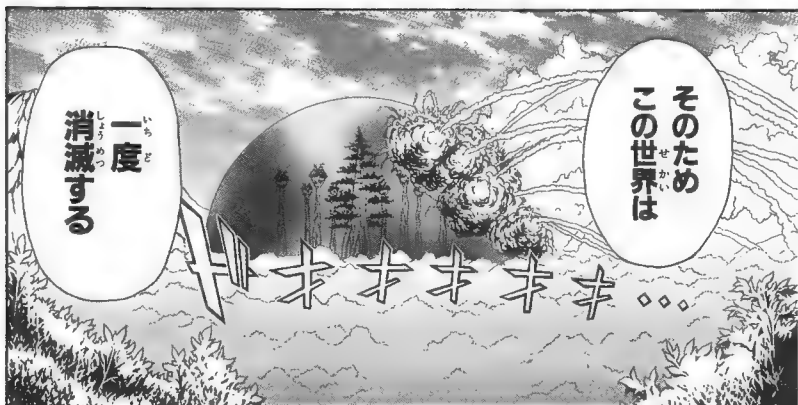
魔具を発動させる前に
おとなしく私を
そこに戻せ

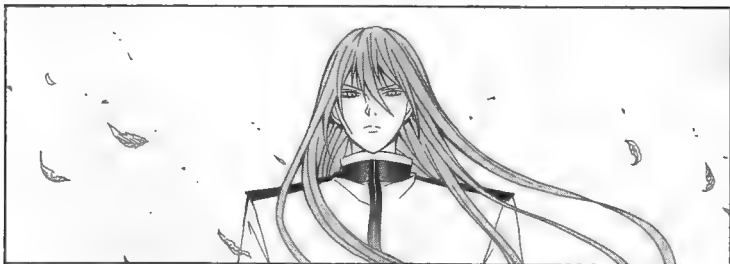












「はじまりの樹」は
完全な世界を
再構築するため

この世界を
一度滅ぼす

「はじまりの樹」が
その力を発するの
に何が必要か知っていよう

力の代償に
捧げるものを

高度な
「文明の産物」…!

この世界を完全に
書き換える力は
壮大なものだ

その力を得るために
必要とされる「文明の産物」も
また壮大な量にのぼろう

そうだ



魔法の発動に
使われた「文明の産物」は
塵となる

「はじまりの樹」は
文明を吸収して
力を発生させるんだ

……！
だったら

「はじまりの
樹」が目覚め
れば――

今地球上にある
文明という文明を
食い尽くすぞ

そうなればどれほどの
被害が出ると思う？



人間だけでも
一億と生き残れまい

あるいは生物の体系
そのものが書き換えられ
現存する生物がことごとく
滅びる可能性もある



魔法の説明を
聞いた時
何か違和感があった



でも…



そうだが
この鎖部の
魔法は
理を守るかも
しれない

引き換えに
文明をリセットする
恐ろしい力でも
あるんだ！



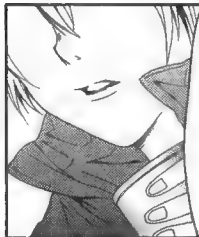
だから

近代^{近代的}になって
鎖部^{鎖部}一族のごく一部で
考えられるようになった



「はじまりの樹」が
目覚める前に
「絶園の樹」を復活させ

もう一度^{いちど}深いダメージを
与えて再び^{また}長い眠りに
つかせることを

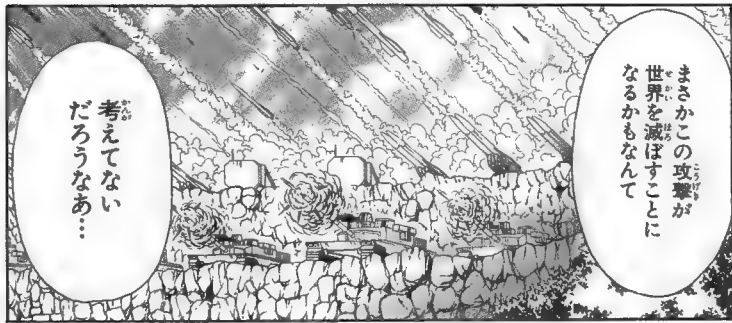


軍隊^{ぐんたい}を動かしている
お偉いさん達…

思^{おも}っても
みなかったけど

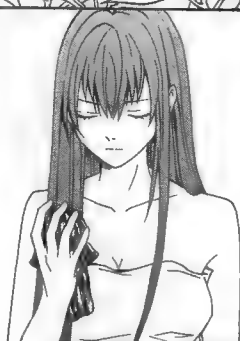


まあ 本^{ほん}当^{とう}にそれが
実^{じつ}行^{こう}されるとは



まさかこの攻撃^{こうげき}が
世界^{せかい}を滅^{ほろ}ぼすことにな
るかもなんて

考^{かんが}えてない
だろうなあ…





「絶園の樹」で
「はじまりの樹」に深い
衝撃を与える方が

どれほどの被害を
出すかわからんぞ



あまつさえ
「はじまりの樹」を
傷つけずぎれば
この世の理が
崩壊しかねん

それこそ
あらゆる生物が
死に絶える



…姫様

あなただけが
そう主張された

先代の魔耶様さえ
「はじまりの樹」の覚醒を
畏怖された

もはや一族で
答えは出ているのです



おごるな



一時的な
被害を出しても

「絶園の樹」ではじまりの樹を
再び深く眠らせなければ
ならないのです



「はじまりの樹」の
従者たる
鎖部の民が

その主に背いて
何とする

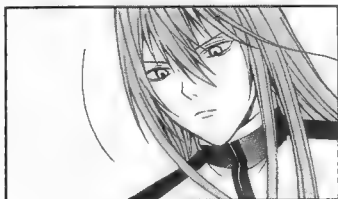


この世界を
守るためです！

従者たれど
我らは樹の奴隷では
ありません！



だからそれでは
世界は守れん！





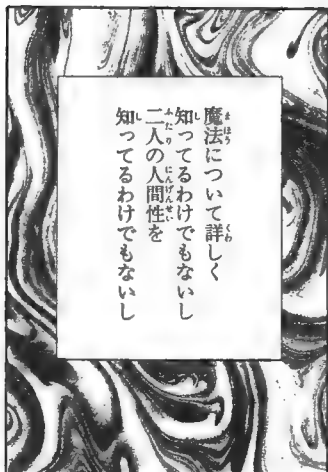
判断を
あやまれば

お前達
この世界を滅ぼすぞ?



どうする
少年

これを聞いても
まだ姫様の
味方をするか?



魔法について詳しく
知ってるわけでもないし
二人の人間性を
知ってるわけでもないし

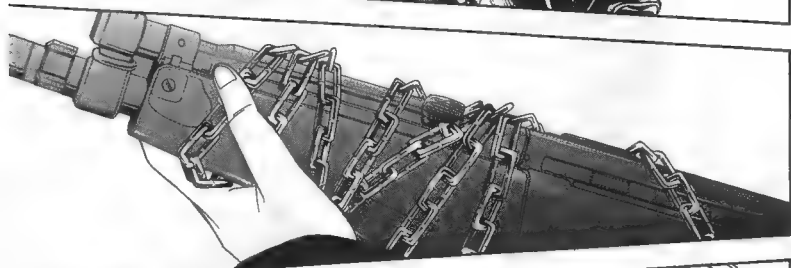


…どうするって
いきなり
そんなの…



どっちが
正しいかなんて…

決められる
わけ……







お前^{まえ}らの方^{ほう}が
正しいかもって話^{はなし}は
どうに薬^{くすり}風^{ふう}から
聞^きいてる

もう一回^{いっぺん}
聞^きかされても
何^{なに}も変^{かは}わらねえよ

いや……
そんな話^{はなし}

僕^{ぼく}は聞^きいて
ないって!

そりや
聞^きかせてねーから

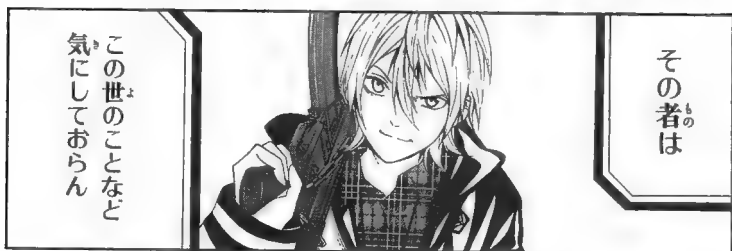
お前^{まえ}が聞^きいたら
ぐだぐだ迷^{まよ}って
面^{めん}倒^{たう}だし

……

お前^{まえ}は姫^{ひめ}様^{さま}の言^{こと}業^{わざ}を
疑^{うたが}わなかったのか?

別^{べつ}にお前^{まえ}の言^{こと}業^{わざ}も
疑^{うたが}ってねえよ

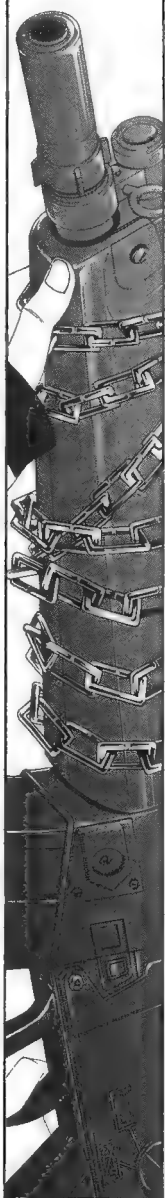
説^{せつ}得^{とく}力^{りき}は
どっちもどっちだろ?



『おれはどん底に降り立っている、

この世もあの世もあるものか、

知ったことか。どうともなれ、

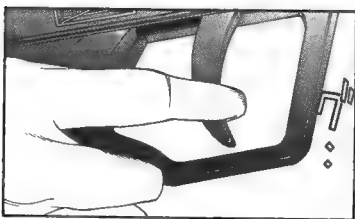
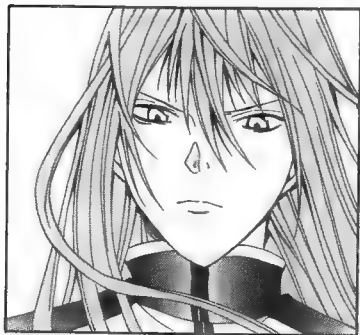






ただ復讐^{ふくしゅう}さえ
すればいいのだ』

※『ハムレット』シェイクスピア(第四幕第五場)
野島秀勝訳 岩波文庫



絶園のテンペスト

THE CIVILIZATION BLASTER

はじまりは終^おわり、終^おわりははじまり。
では『はじまりの樹^き』が目覚^めめたならば、



はじまりが終^おわるのでしょうか。
終^おわりがはじまるのでしょうか。



だい はち わ ま じょ た し かん
第八話：魔女を断つ、時間



THE CIVILIZATION BEASTER

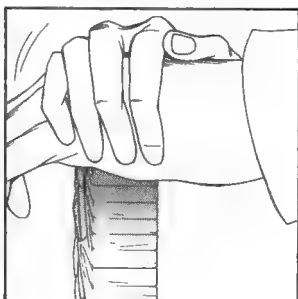
世界^{せかい}の心配^{しんぱい}は
あと
後^{あと}だ

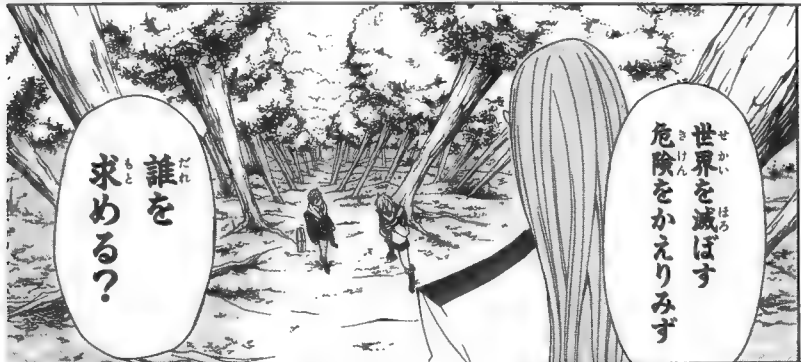
オレは

あいつに見^みつけて
もらうやつがいる

さあ
葉^は風^{かぜ}を戻^{もど}せよ









とはいえ……

真広の妹が
一年前に殺されて
いなければ……

真広は復讐を
考えず私に手を
貸すことも――

こうして左門に
揺るがぬ態度を
取ることもなかったろう

捉え方によれば
真広の妹は

私のために
殺されたとも言える

しかし殺されたのは
私がここに
放り出される前だ

「はじまりの樹」が
私のためにそう仕組んだ
わけはあるまい……



——これでいいのか？



葉風さんは
この世界を
滅ぼしてしまっ

でもあの
左門って男の
言うとおりでた



葉風さんが
世界を救うなら

それを真広個人の望みで
決めていいのか？



——
真広



世界を救って
やるって言ったろ？

お前は



下手すれば
その逆になるかも
しれないんだぞ？

それは理に
かなってるのか？



この世界が
おおむねでも
正しいなら

葉風を戻しても
滅びやしねえよ



でも
どうしようもなく
間違ってたれば

一度滅んで
造り直した方が
よっぽど正しくねえか？



…そうか



真広にとつて
愛花ちゃんを殺した
この世界は

とにかく
気に入らないんだ

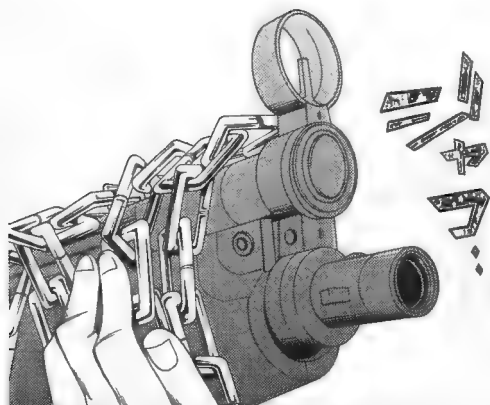
無理だ

僕が真広を
どうこうできる
わけがない

どんな形であれ
修正されるなら
筋が通ってるって
考えてるんだ

愛花ちゃんのために何ができるか
僕にはわかりもしないのに——…





ミヤコ

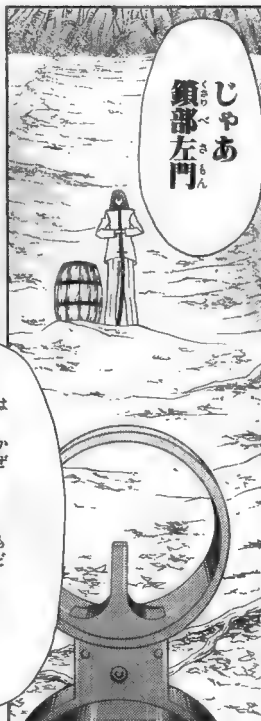


安心の
吉野

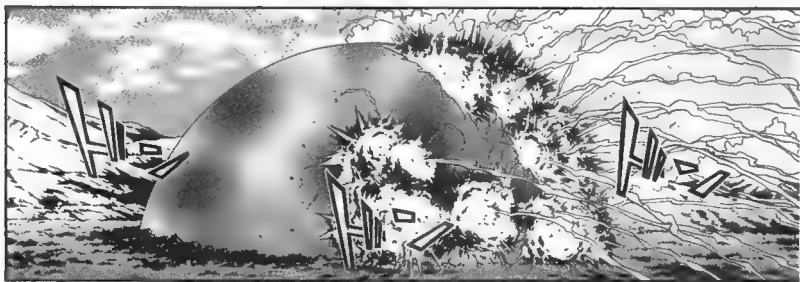
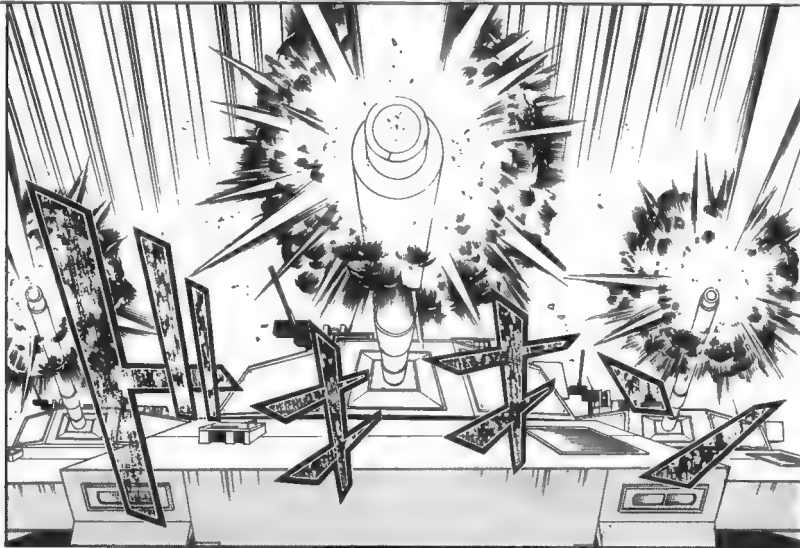
左門の言うとおり
にはならん



葉風を戻せよ



じゃあ
鎖部左門



現状が続けば
一層の消失は
時間の問題です！



軍の
連中め！



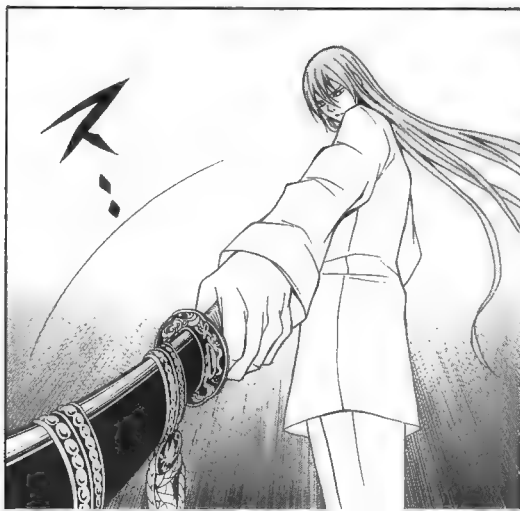
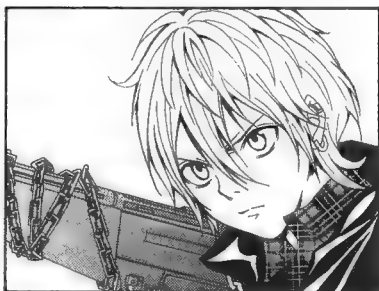
自分達の
攻撃が

この世を
滅ぼすかも
しれんのだぞ！



少年

ひとつ問う



ひめさま
姫様が

すでに死んでいる
とすれば？

…例えば話は
リアリティが
あるのにしろよ

フ…

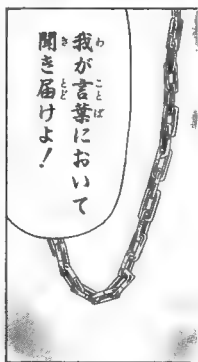
カッ

みるがいい

ひめさま
姫様はすでに
死んでいる

じゅうぶん
十分リアルだ

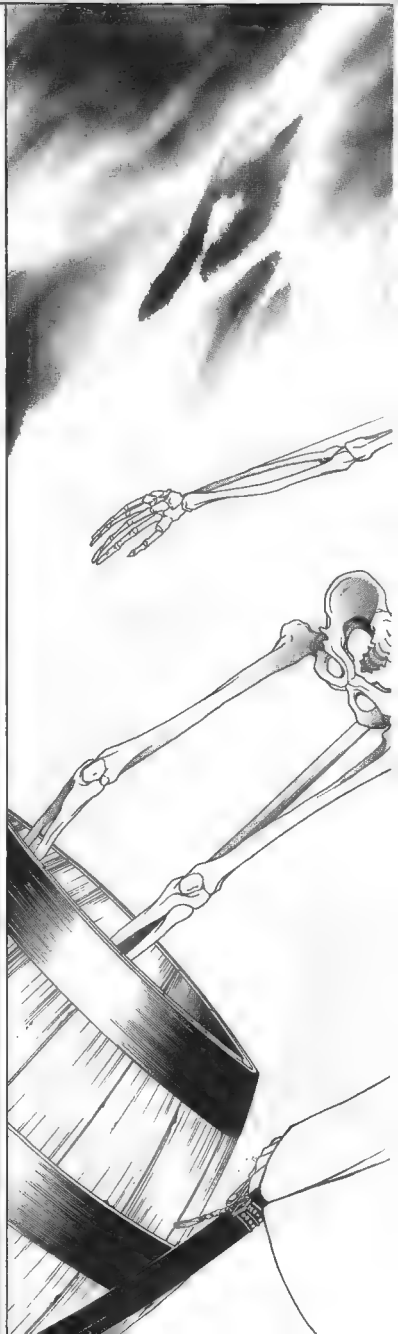
シヤラ

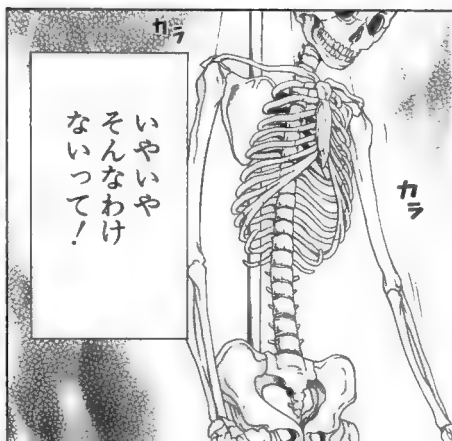




姫様ひめさまはこのように
骨はねとなっている
お前まえの望みのぞを
かなえる力ちからはない

我々われわれの邪魔じゃまをしても
お前まえが得るえものは
何なにもないのだ



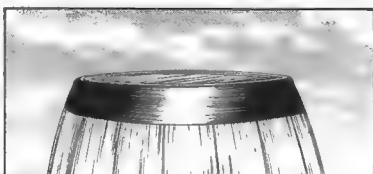
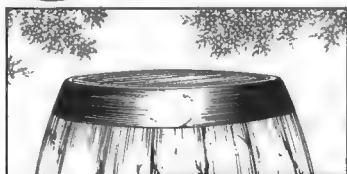




死んでいるわけ
なからう？

こうして今
貴様と話している私が

…左門

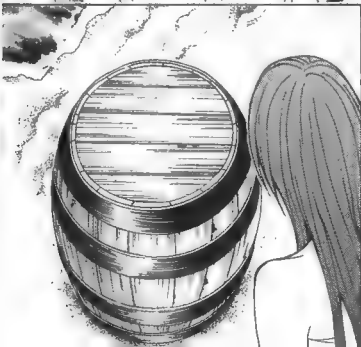


しかしこれは
あなたの全身骨格です

よもや
貴様

この私を幽霊と
でも言うのか？

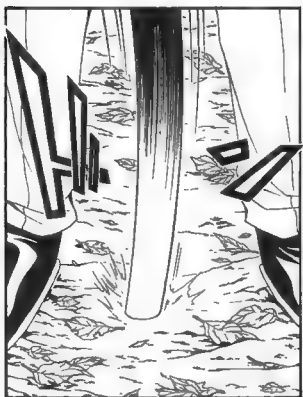
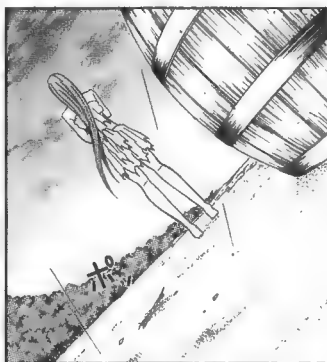
いえ



孤島から
持ち帰りました

私がこの手で
この樽と共に





姫様 ひめさま

今は いま
何年 なんねん ですか？

なに？

その島で過ごされて
四か月程だそうですが

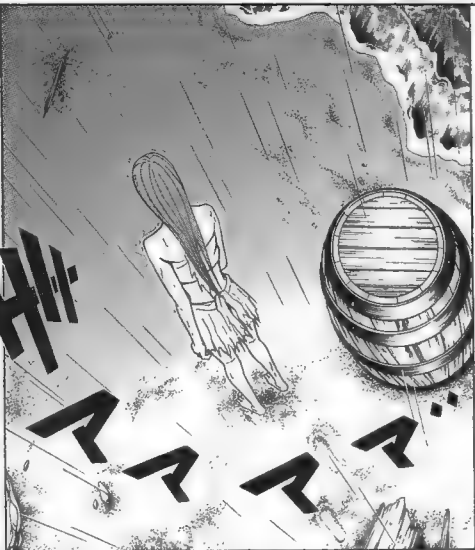
今 いま 西暦 せいれき で言えば
何年 なんねん ですか？

今は いま

西暦 せいれき …



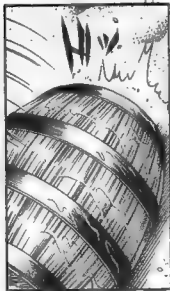
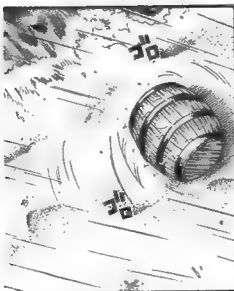
.....
年^{ねん}だ



それ にねんまえ 二年前の
西暦 せいれき ですよ？

今は いま それから
二年 にねん 過ぎて す ます





バカを
言うな!

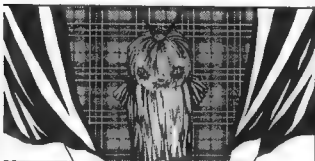
私はこの島で
よんげつほど
四か月程しか
過ごしておらんぞ

いくらなんでも
まるまる二年も
かんちが
勘違いするか!



どういう
ことだ?

ひめさま
姫様

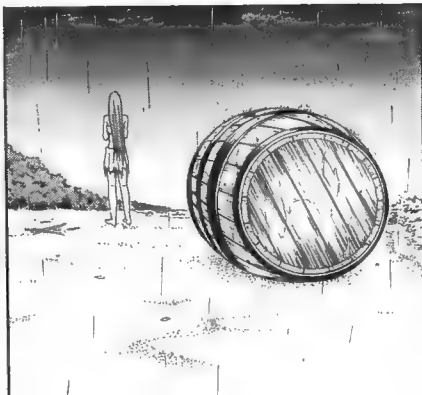


そこは我々にとつて
二年前の世界です

姫様からすれば
こちらは
二年後の世界

魔法による
交通方法で
なければ

まずこんなことは
起こらなかった
でしょう



魔法^{まほう}によって
いまげんざい^{いまだげんざい}に^にねんまえ^{ねんまえ}
今現在と二年前の
その島^{しま}が

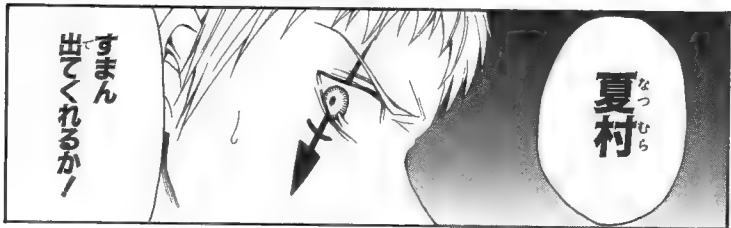




時間^{じかん}を越^こえて
つながって
いるのです

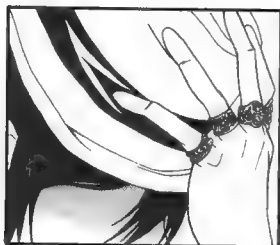


時間^{じかん}を
越^こえて!!



夏村 なつむら

すまん
出てくれるか？



ぐん
軍の兵器
さんわりの
三割程でい
ちり
塵にしてくれ

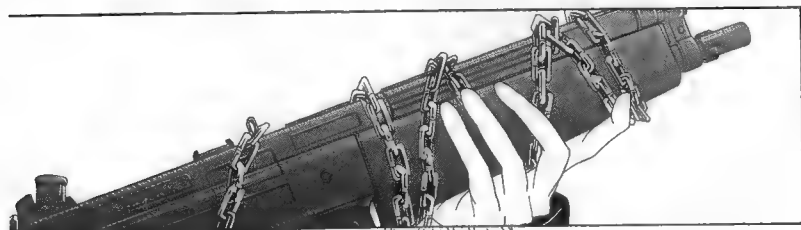


りようかい
了解しました



我々には
防御魔法しかない
だが戦う術はある

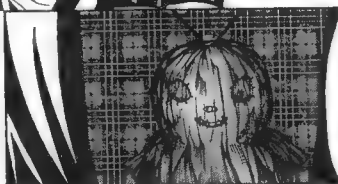
いつまでも
好きにはさせん！



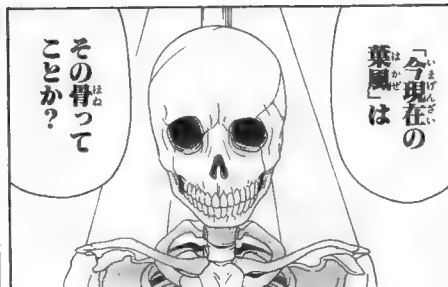
つまり

ス：

今こうして
オレらと話して
いるのは



二年前の
葉風で



「今現在の
葉風」は

その骨つて
ことか？

その人形

姫様の側にも
同じものがあり

魔法の力によって
人形同士が共鳴する
ようにつながって

空間を越えて
会話ができていよう

特定の相手にだけ
つながる通信機
のようなものだ

鎮部一族で
古くから使われている
交信魔法でもある

人形同士で
つながるなら

何でこれが
「今現在にある人形」と
つながらず

わざわざ「二年前の
葉風が持つてくる人形」と
つながっちゃったんだ？

お前がその人形を
手にした時、姫様側の
「現在の人形」が
壊れてしまっていたか

魔法の力を
失っていたか
したのでろう

半年も海水に
つかっていれば
ありうる話だ

まともな通信機なら
受け手がなければ
どこともつながらず

それで終わった
話だが…

「現在」につながる相手がい
ないのなら、時間を
さかのぼって

「過去の空間」に
つながれる人形を
探したんだな

でも

こいつは
魔法仕掛けの
通信機か

おそらく

なぜ「二年前」の
時空間にある人形と
つながったかは知れんが

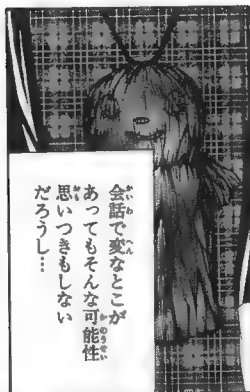
そこが一番
つながりやすかったの
だろう

でも
真広

最初、葉風さんと
話した時

まるまる二年も
ずれてるのに
気付かなかったのか？

ドッ





左門！



堅実が信条の
貴様が

私を殺すなど
という危険を冒す
はずがない！



二年後のそちらで
私は骨になっている？

ありえん！



私が
いなければ

「絶國の樹」復活に
失敗した時
どうする気だ？



姫様！
堅実な私とて

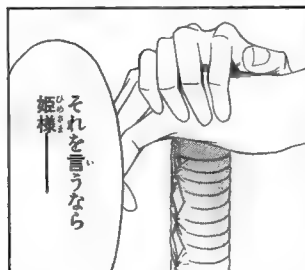
あなたが相手と
なれば大きな雫も
打ちます！



でなければ
この世界は守れぬと
そこだけは信条を捨て



恐怖に耐え
あなたを骨と
したのです！



それを言うなら
姫様――



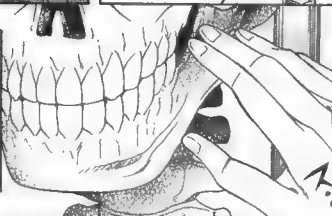
堅実な私がわずか
四か月足らずの準備で

「絶園の樹」復活を
本格化させると
思いますか？



私は堅実ゆえに
準備に二年以上を
かけました

織ほどの失敗もせぬよう
準備に準備を
かさねたのです！

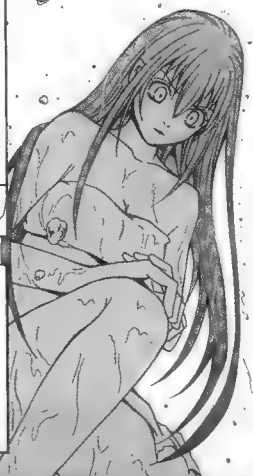


それに



この骨潤一郎も
姫様のものと
認めました

それを偽りとは
思いますまい

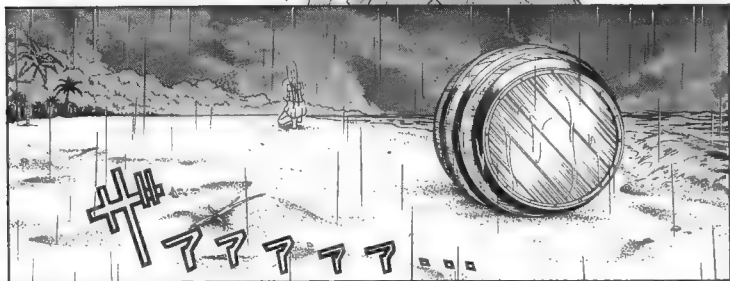


潤一郎さんの
証言でわかった
頭蓋骨の矛盾

あれは
時間がずれてれば
解決する

あれをちゃんと
つきつめてれば

もっと早く
この事実に
気付けたんじゃ
ないか？



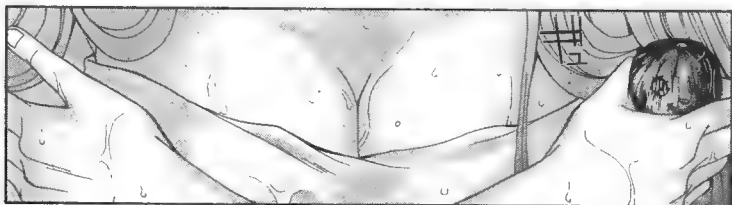
アアアアア

人形を入れた
ボトル：

そうだ

あれが数か月で
日本に流れ着いたと
するのもおかしい





やはり

わたし
私は死んで
いるのか？

わたしは
貴様達にとって

二年前の時と
場所なのか？

こうして
話している
姫様は

われわれ
我々にとって
幻のような
ものです

ひめさま
姫様

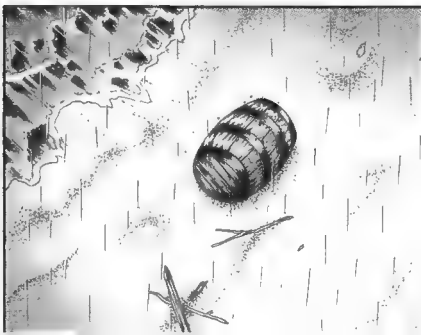
あなたの
負けです

生きていても
死んでいる

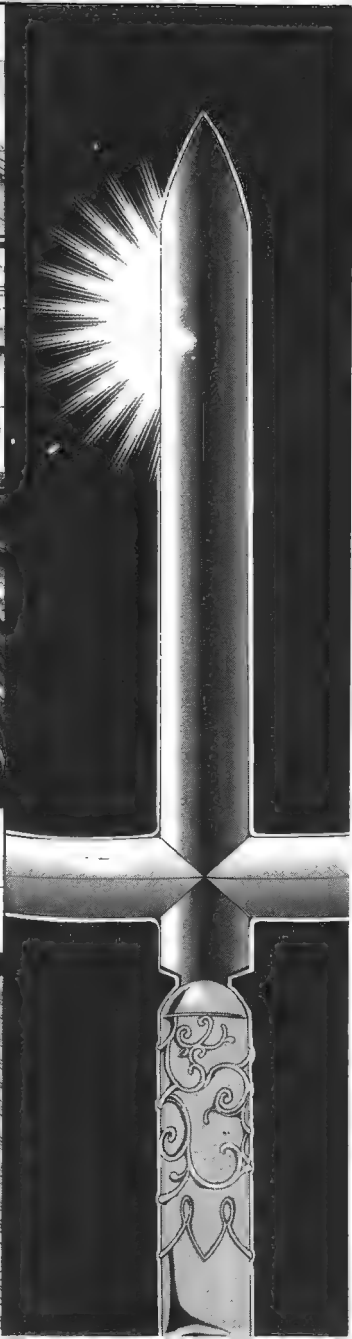
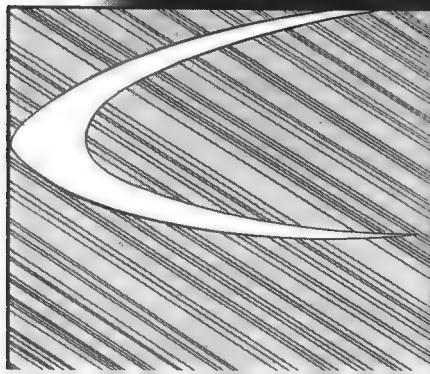
そのあなたがここに
戻り
魔法を使うことは
もはやかたありません

その島は
いわば

あなたにとって
時間の檻なのです











推参なり



これで
形勢逆転かな

夏村君が出たか



葉風さんがすでに
死んでいるなら
ここに戻ってくる
ことはないし

真広の望みを
かなえることも
できない

なら僕らが
戦う理由もない

これで
終わりか…

トッ

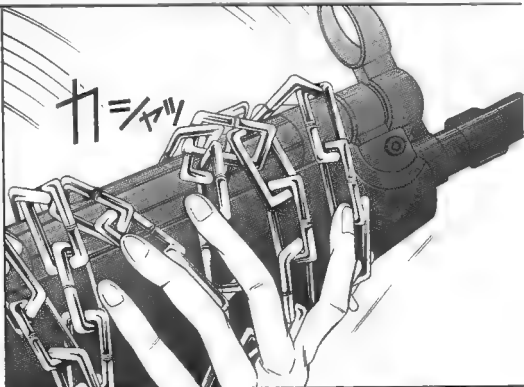
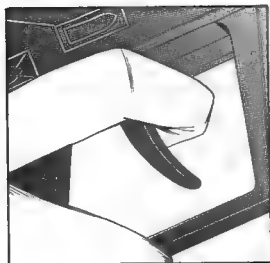
トッ

もう目面倒な
ことになったな

葉風が
使えねえとは

でも
まあいい





まだ手が
あるからな

オレには



絶園のテンペスト

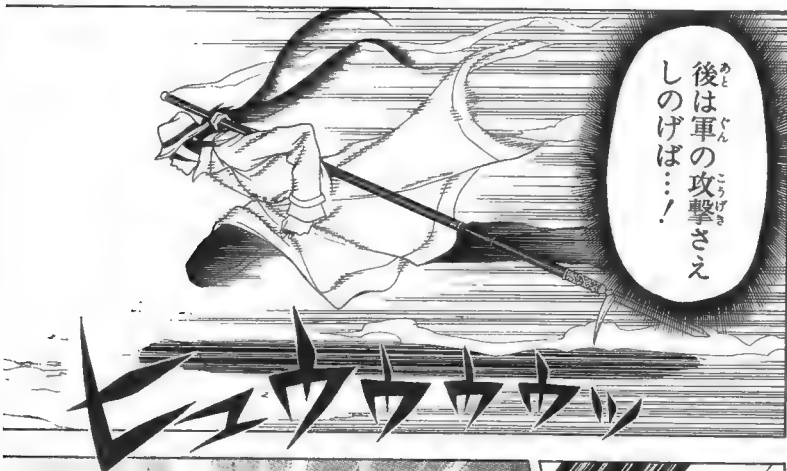
THE CIVILIZATION BLASTER

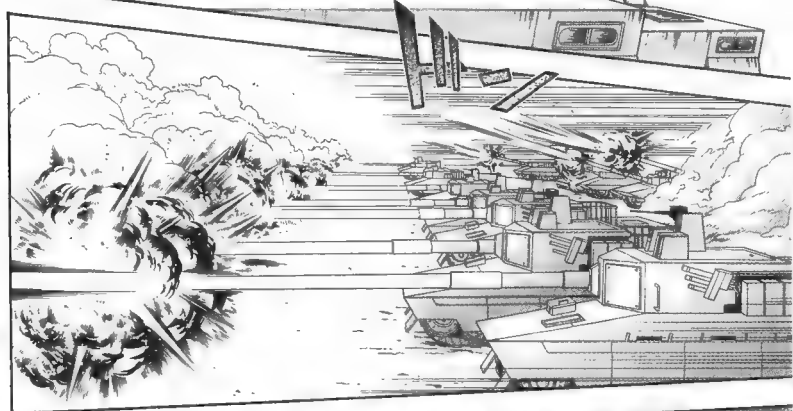


だい きゅう ぐわい
第九話：『テンペスト』

ひめさま
姫様を封じ
込められた！





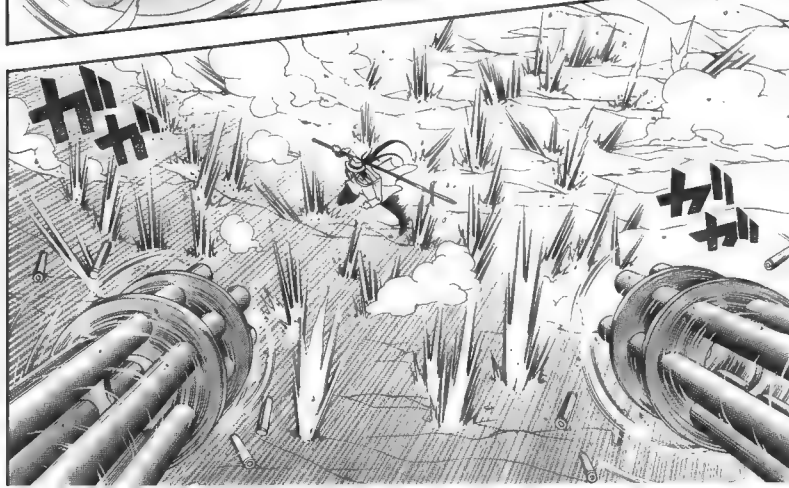
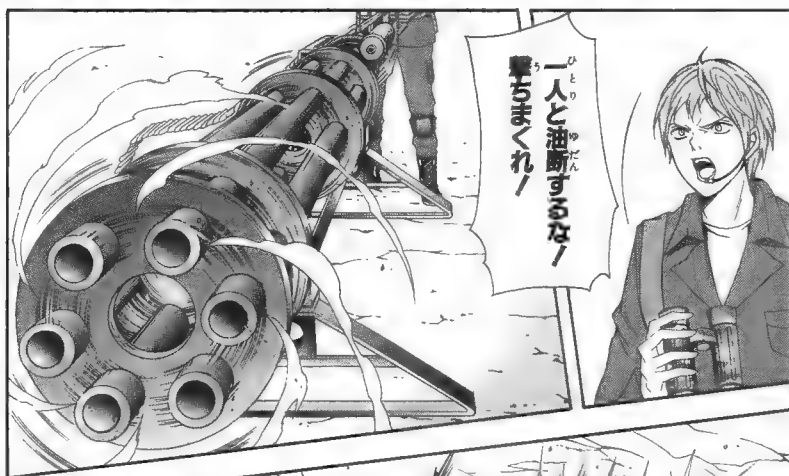
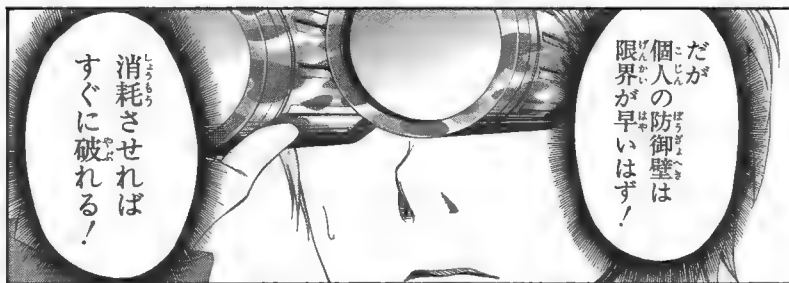


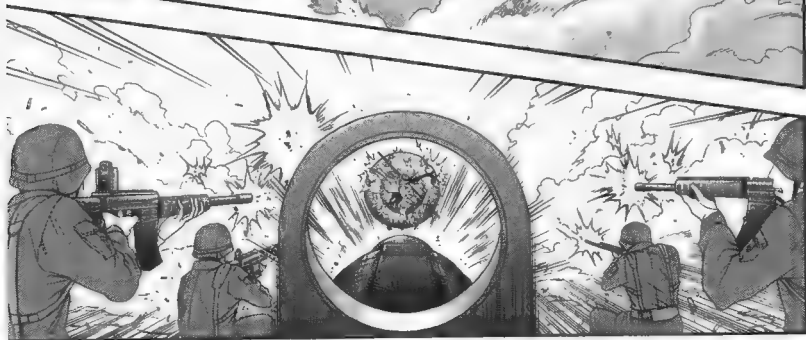


砲撃を
ものとも
しない！

あれが
魔法防
御！









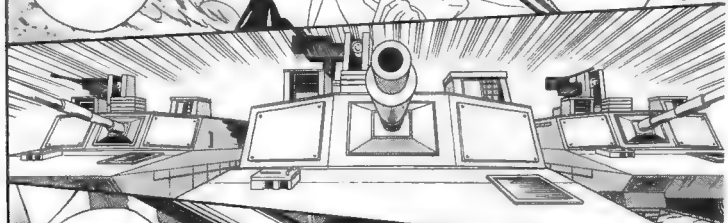
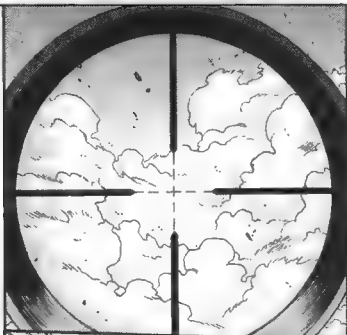
あと
30 m...!



ぼうぎょ
防御フィールドは
ギリギリ保つ!

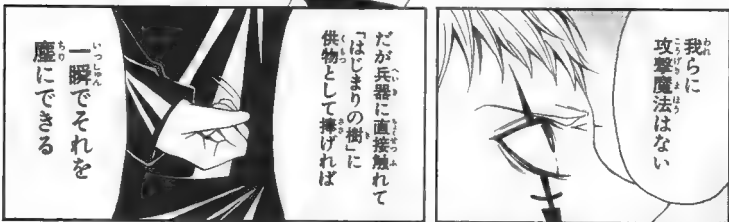
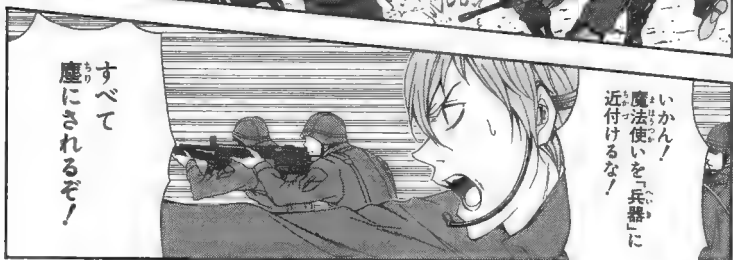
あと少し













これを繰り返せば
事実上 鎖部の魔法使いは
無敵であり

兵器は残らず
塵にできる!

強力な兵器に頼る
軍ほど切り崩すのに
わけではない!

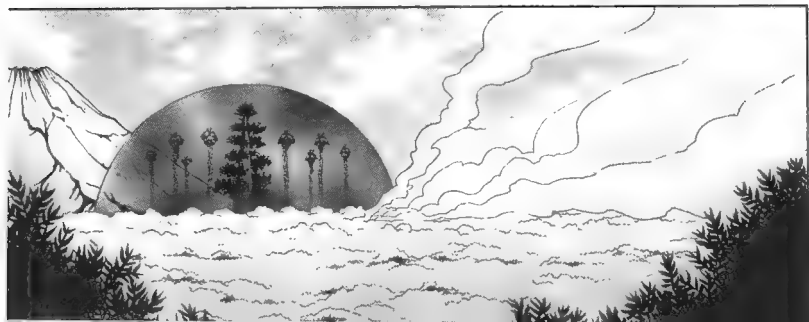


まずい!

このままでは
総崩れにされるぞ!



#!





少年達よ

お前達の
旅も終わった

もはや我々が
対立する理由は
なからう

悪いようには
せん

ただ
鎮部の長として

お前達がこれ以上
外界で魔法を使う事は
許可できん



残念^{ざんねん}だったな

葉風^{はかせ}

まあ
骨^{ほね}になつてゐるなら
仕方^{しかた}ねえ

悪^{わる}く思^{おも}うな

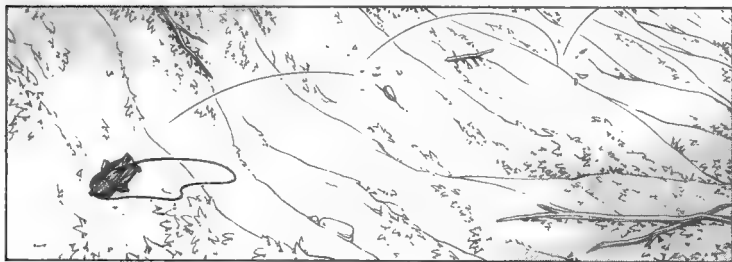
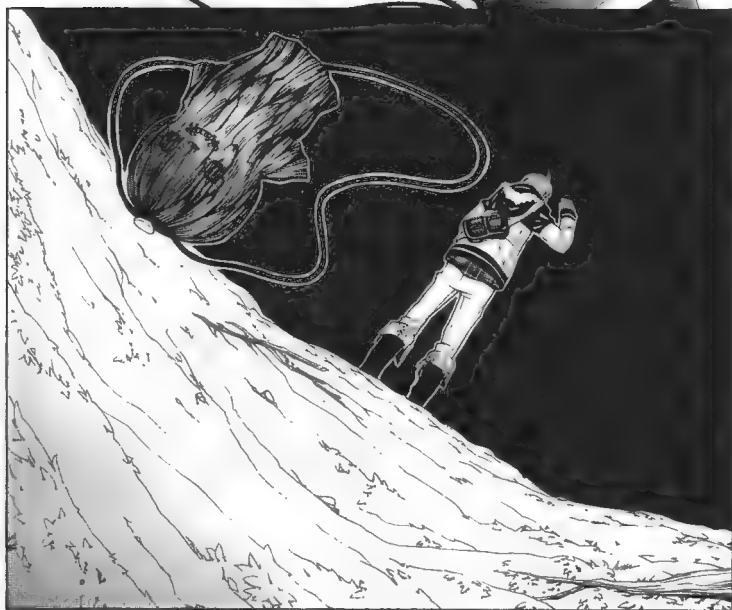
ああ

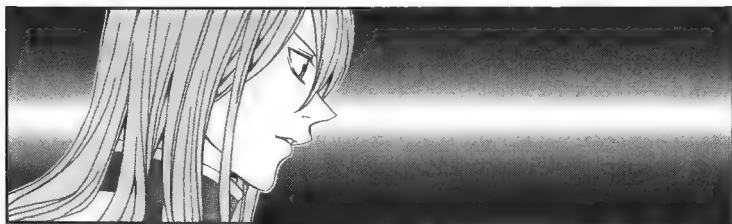
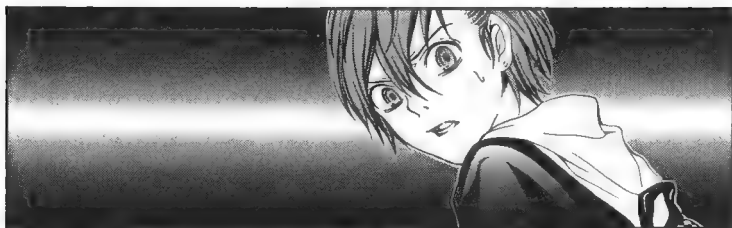
貴様^{きさま}の情けなど
期待^{たいたい}しておらん

好き^すにしろ

そこで勝手に
死^しんでろ

じゃあな
葉風^{はかせ}

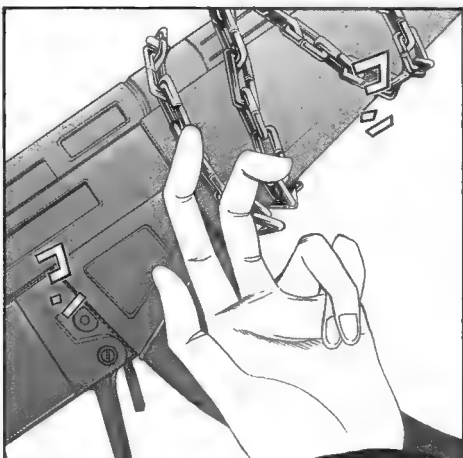




鎖部左門
くさのべさもん

オレはまだ

こいつを使う
気があるぜ





お前は何を
やっている？

姫様がこちらに
戻れなければお前も
負けであろう！



世界が
それで終わるぞ！



その魔具を発動
させて「絶園の樹」を
狂わせれば

誰もその破壊を
止められんぞ！

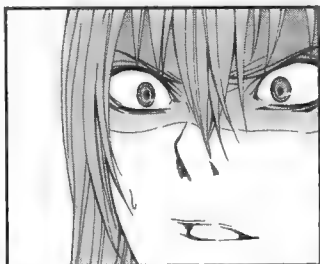


世界がどうにか
なつて困るのは
お前らだけだろ？



おいおい

オレがいつ
世界のことを
気にかけたよ？



しまった！

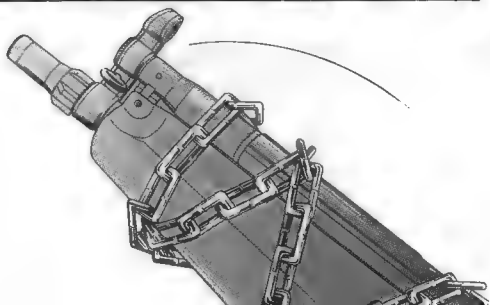
この少年
もしや…！

取りひき
取引だ
くさりべ
鎖部左門
さもん

葉風がダメなら
お前にオレの望みを
かなえてもらう

できないって
言うなら――

ス…





即座に
引き金を引いて

この魔具を
発動させる



望みがかなわねえなら
もとよりこんな世界

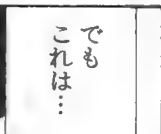
どうなっても
いいからな



そうか
真広なら最初から
考えていたはずだ!



葉風さんが
当てにならなくなった
時のことを!



でも
これは…



これは…



葉風が
使えねえなら

お前に乗り換え
たって全然構わな
かったのさ



この魔具を手
ここに来た時点で

オレは葉風とお前
どっちとも取引できる
立場になったんだよ

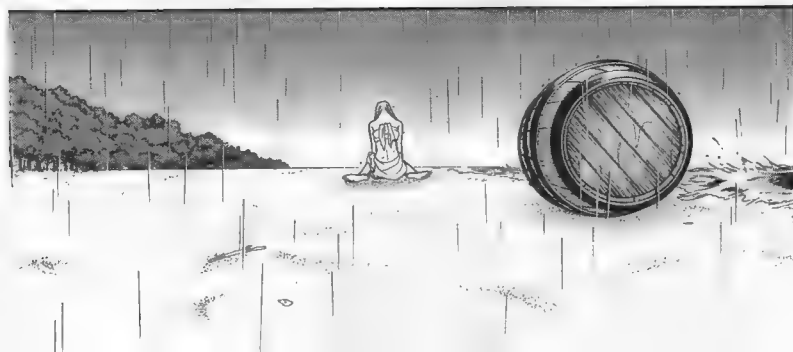


葉風さんを
見捨てるのは
違いやしないか？



でも
真広

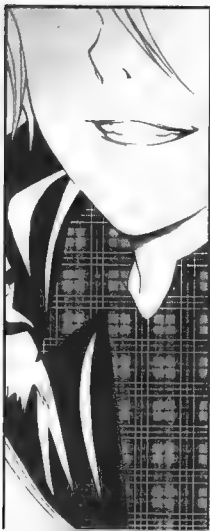
これは
ひどくないか？





なんという…

なんという
少年だ！
しょうねん



ただおのれの
欲望のために
私を…

世界を脅そうと
いうのか…！
せかいをおど



大義も情もなく
姫様をあつさり見捨て
たいやうもなさ

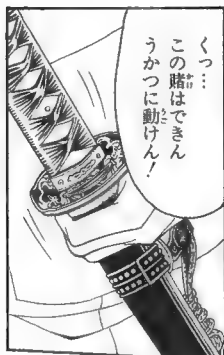
ああ
どうする？

鎖部左門
くさりべさもん

ヤミヤ

オレの指は
かるゆび
軽いぜ？

はったりでは
ない…



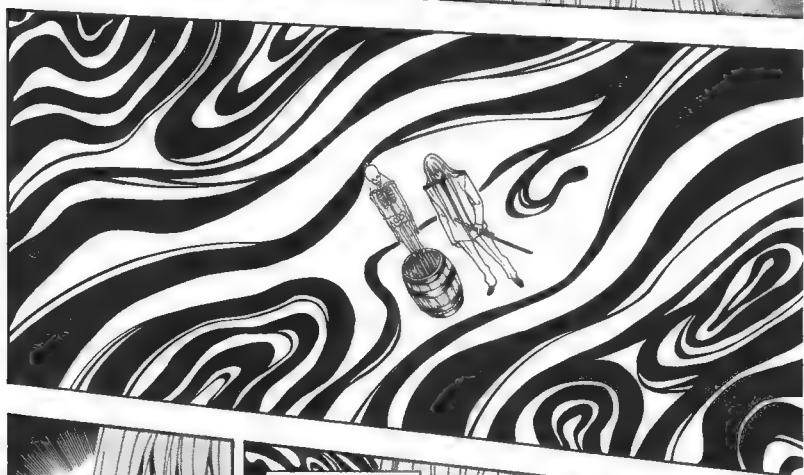
くっ…
この賭はでん
うかつに動けん!



そうでなくても
弾みで引かせる
可能性もある



下手に魔具を
奪おうとすれば
必ず引く



かんが
どう考える
べきだ?



これも
「はじまりの樹」の
理の内か？

いや

あの少年も
姫様を切り捨てた…
姫様に勝つ目はない

落ち着いて
対処すればいい

誤差の
範囲内だ…！



……今度は私も
知る必要があるう？



……お前の
望みは何だ？



見つけて
そいつを

殺すためにな



一年前オレの妹が
誰かに殺された

オレはその犯人を
探している

…魔法で

その犯人を
見つけろと？

そいつを
この手で殺せれば

シヤ
ラ

お前にこの魔具を
素直にくれてやるよ

そうだ

犯人探し

思ったよりは
常識的な要求か？

だが見つけるのには
時間がかかるぞ？

殺人現場は
どこだ？

そこから探査の
魔法を相当数
繰り返す手続きが…



犯人は
鎖部一族の誰かだ



その必要は
ねえ

葉風の魔法で
ある程度絞り込めてる



一族の者
だとっ!?



それに今一族の
ほぼ全員がこの辺りに
集まっているはずだ

身柄もすぐ
押さえられるよな



それだけ
わかってれば

一族をまとめる権限で
簡単に犯人を特定
できるんだろ?







仮にも鎖部をまとめる
私が子供の脅迫に應じて
身内を引き渡して
いいものか？

渡せば
殺されると
わかっていて？

だが

一族の者が
私欲で殺人を犯し
あまつさえ

犯行に魔法を
利用していたとすれば
許し難い大罪だ

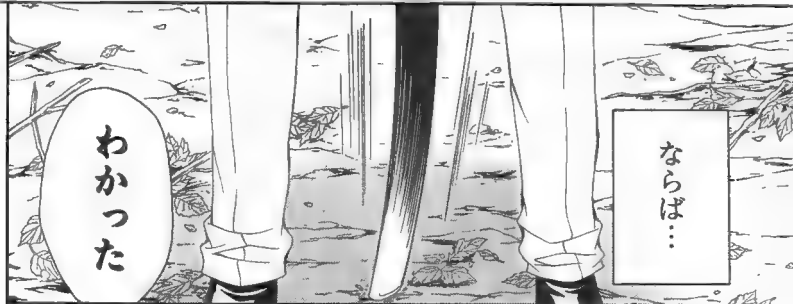


身内でも
厳格な処分が
求められる

よほどの立場に
ある者でないかぎり
引き渡しても面目が
立つのではないか？

それであの魔具を
手放すなら
交換条件として
悪くない

むしろ世界を守る
代償としては割がいい



わかった

ならば…



お前まえの要求ようきゅうに
おう
応じよう



一年前いちねんまえの

じゅういちがつにじゅうさんにち
十二月二十二日



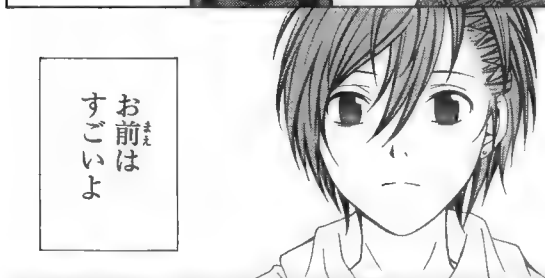
その妹いもうとが
殺ころされたのは
いつだ？





ああ
すごいな真広

お前は
すごいよ



たくさんの人が
死んで

時間さえねじれる
ひどい有様の中で

魔法と樹が
世界を揺るがして

お前だけは
お前の理屈を通しきって
望みをかなえてしまった





悲劇だよ

でも真広
これは悲劇だ



葉風さん
吉野です

真広と左門の取引が
成立しました



けど僕に

それを
止める力も資格も
ありません





だが
手がない

私はそちらの時間
で
もう死んでいる



私がそちらに
戻れないと決まった時
すべての道は消えた



今一時的に復活を
止められても

その後まで左門を
阻める者がいないのだ



真広が私を
見捨てても
文句は言えん



.....

……ここで
真広のように

「ハムレット」の
セリフでも引用できれば
少しは格好がつくものを

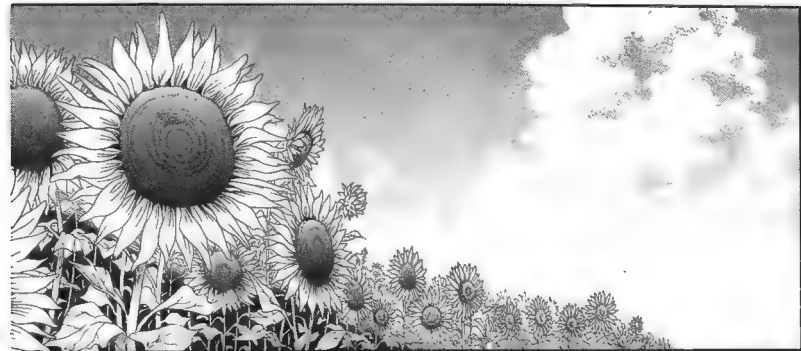
何も
思い浮かばん

こんな時

あんな悲劇から
引用するものじや
ありませんよ

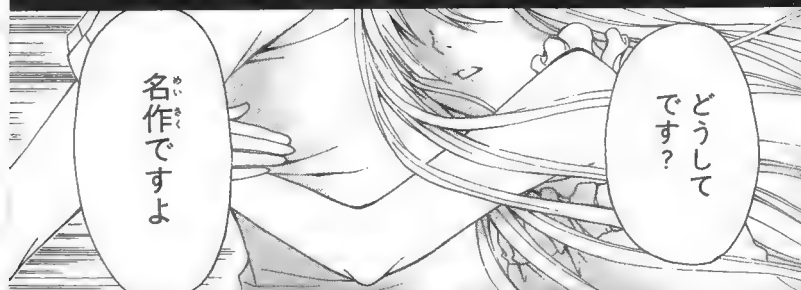
僕もよく
愛花ちゃんに……

……
!!



だから
愛花ちゃん

「ハムレット」から
引用するの
やめようって



どうして
です？

名作ですよ





縁起悪過ぎ
るって

だいたいハムレット自身も
恋人のお兄さんと決闘して
死んじゃうし



あれ復讐に
こだわるせいで
母親も恋人も

そのお兄さんも
みんな死んじゃう
悲劇の話だよ



そうですね



だからそれ
部分的にありそうな
未来なんだって…

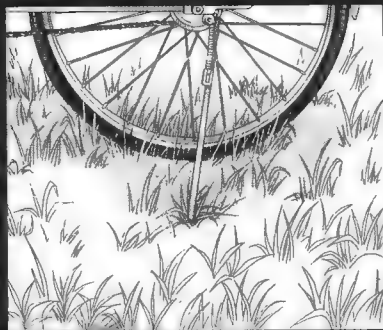


ふふ…



私たちに
置き換えると

私のせいでマヒロと
吉野さんが殺し合う
展開ですよね







では



かな
ふくろう
同じ復讐の
話でも

最後は皆が
幸せになる物語からに
しましょうか

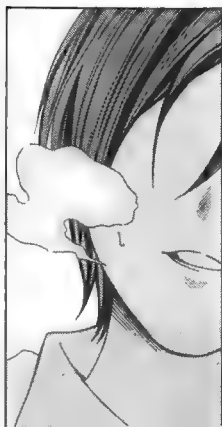


復讐の話なのに
皆が幸せになるって…
それ何てタイトル？



これも
シェイクスピアの
作品で

孤島の
魔法使いの物語です





復讐
孤島
魔法使い

これは
偶然？



何だ？

どうして
こんな事
思い出す？





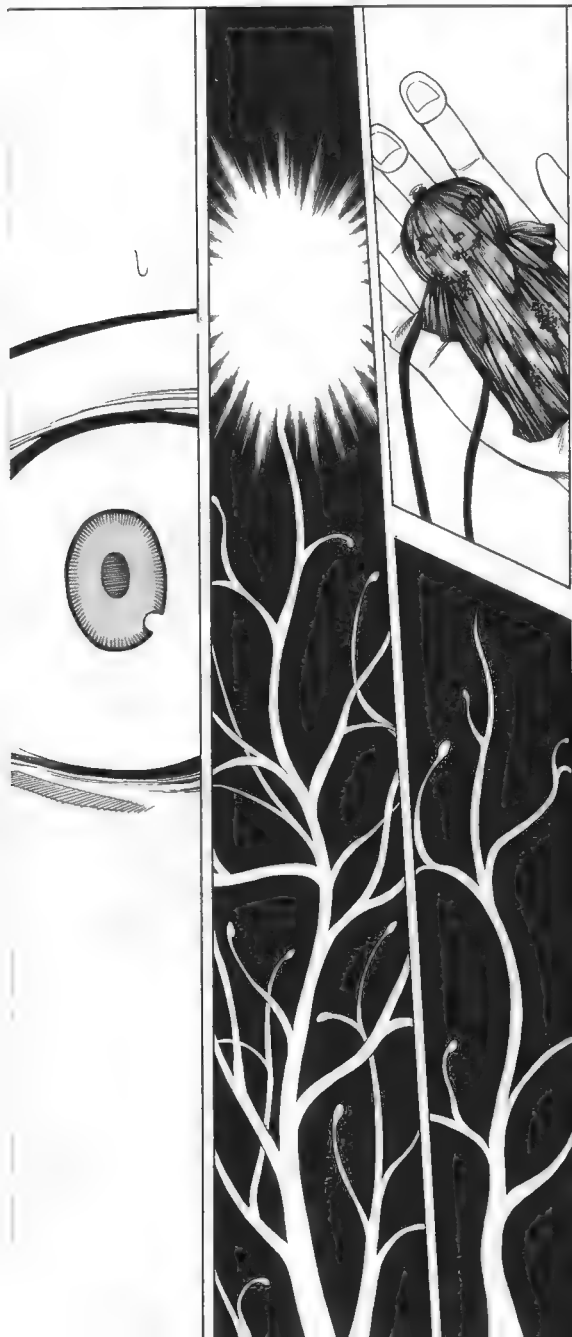
もしかして
愛花ちゃん

これを悲劇じや
ない物語に
できるのか？

僕は
そのために
ここに
いる？



葉風さんを
孤島からここに
戻す道があるとでも…



『テンペスト』

ウィリアム・シェイクスピアによる十七世紀の戯曲。
そのタイトルの意味は『嵐』。

絶園のテンペスト



ああ？



真広

僕らは何のためにここに来た？

自分が為すべきことに気づいた



復讐のためといえ

お前はそんな悲劇の結末を許すのか！

吉野——！！

「愛花」との思い出にかけて



あの少年……！

よもや



吉野

何を機嫌にそう強く出られる？

葉風を救う証を開始……！！



魔法使^{まほうつかひ}いただ一人^{ひとり}に
ここまで軍^{いくさ}が
崩^{くずれ}れるか？

鎖部夏村、突進…!!



激^{はげ}しさを増^ふす結界^{けいがい}外^{がわ}の戦^{いくさ}い、



なんて
奴^{やつ}だ！

兵^{へい}はろくに傷^{きず}付^つけず
兵器^{へいき}だけを完全^{かんぜん}に
破^{やぶ}壊^{くわい}している！



「この世^{このよ}の理^{ことわり}」は
ど^いのよう^{よう}な結末^{けつまつ}を望^{のぞ}むのか…!?



真広
こちら側につくと
いうなら

お前に愛花ちゃんの
彼氏が誰だったか
教えてやる

二人の関係



でまかせ
言ってんじゃ
ねえぞ!

~~~~~

そして「愛花」という大きな存在...

破れはせん!

ならばお前の仮説は  
砂の城も同じ

非現実的な  
言葉遊びに過ぎん!

## 吉野の論理と取引は

時間の檻は  
破れる

いや 時間の檻自体  
錯覚なんだよ  
タイムパラドックスもない

葉風を世界を救えるのか!?

『絶園のテンペスト』第3巻へ続く!!

T o b e c o n t i n u e d

## 原作者あとがき

『禁断の惑星』というSF映画があります。

一九五六年のアメリカ作品で、作中に登場

するロボット「ロビー」は、そのおもちゃにプレミアがついたり、何度も復刻されるほど有名です。『イドの怪物』やセツトの造形、特撮技術など印象的な所も多く、歴史に残るSF映画の名作のひとつとして高い評価を得ています。

さて、この『禁断の惑星』のストーリーは、とある古典的名作をもとにされていると言います。宇宙を舞台とし、大きく改変はされていますが、その作品こそシェイクスピアの『テンペスト』。魔法使いと狐島と復讐の物語です。私が『テンペスト』という作品を知ったのは、この映画がきっかけでした。

ご存じの方もそうでない方も、原作担当の城平京です。第2巻です。前巻ではご挨拶できませんでした。達者に、海の無い果に、暮らしています。

『禁断の惑星』からシェイクスピア作品を知る、というのはなんともおかしな道順かもしれませんが、本作『絶園のテンペスト』を書くにあたって、『テンペスト』という作品の

存在を取り入れることになるにも、いささかおかしな道をたどっています。

本作の構想のきっかけは、私の好きなF・W・クロフツの推理小説『樽』のパロディ風に、『魔法少女は樽の中』というタイトルの話を書けなかなあなど、とまたつまらないことを真面目に考えていたことにあります。本州、四国間を複雑に移動された二つの樽か

ら本物の魔法少女が入っている方を推理して選べ、とか何とか。

それから「魔法少女は樽の中、手足曲げられ樽の中、ふたを開けても驚くな、骨になったら目覚めましよ」とかいふマザーグースみたいなフレーズをあてどもなく作つてメモしておいたり、夢野久作の名作短編「瓶詰の地獄」を読み返したり、担当編集者と話し合ったり、そういうしているうちにシエイクスピアの「ハムレット」をモチーフに思いつき、第二話を書き上げることになりました。

本作で最初に取り入れられたシエイクスピア作品は、四大悲劇のひとつである「ハムレット」だったので。さらに第一話を完成させた後にもまた、「禁断の惑星」や「テンペスト」について思い出すことがなかつたくらいです。

けれど悲劇の物語を書き換えようとするかのように「テンペスト」は後から原稿内に入り込んできました。意図していないのに「魔法使い、孤島、復讐」の共通設定があつたのにふと気づき、妙にながるのを発見したので。ゆえに本作はあらゆる思惑を越え、悲劇に始まっていても、幸福に終わる物語となるかもしれない。

さて、この巻で明かされた「時間のずれ」を予測されていた方も多いかと思いますが、真実がわかつてても本番はこれから。登場人物達の意志と知恵が物語を揺らす予定です。フロイライン山本さんも活躍予定。復讐に始まった物語はどこへ向かうでしょうか。では第3巻でお会いできることを祈ります。

城平京



まい つき にち はつ ばい  
(毎月12日発売)にて

だい にん き れん さい ちゅう  
大人気連載中!!



げつ かん しょう ねん  
月刊少年ガンガン

ガンガンコミックス

# 絶園のテンペスト

~THE CIVILIZATION BLASTER~

## 絶園のテンペスト 2

2010年7月22日 初版

2012年9月12日 11刷

原作/城平 京  
構成/左 有秀  
作画/彩崎 廉

©2010 Kyo Shirodaira

©2010 Arihide Sano

©2010 Ren Saizaki

発行人

田口浩司

発行所

株式会社スクウェア・エニックス

〒151-8544 東京都渋谷区代々木3-22-7 新宿文化クイントビル3階

〈内容についてのお問い合わせ〉

TEL 03(5333)0835

〈販売・営業に関するお問い合わせ〉

TEL 03(5333)0832

FAX 03(5352)6464

印刷所

図書印刷株式会社

○本書の内容の一部あるいは全部を、著作権者、出版権者等の許諾なく、転載、複写、複製、公衆送信（放送、有線放送、インターネットへのアップロード）、翻訳、翻案など行うことは、著作権法上の例外を除き、法律で禁じられています。これらの行為を行った場合、法律により刑事罰が科せられる可能性があります。また、個人、家庭内又はそれらに準ずる範囲での使用目的であっても、本書を代行業者等の第三者に依頼して、スキャン、デジタル化等複製する行為は著作権法で禁じられています。

○乱丁・落丁本はお取り替え致します。大変お手数ですが、購入された書店名と不具合箇所を明記して小社出版業務部宛にお送り下さい。送料は小社負担でお取り替え致します。但し、古書店でご購入されたものについてはお取り替えに応じかねます。

○定価は表紙カバーに表示してあります。

Printed in Japan

ISBN978-4-7575-2935-9 C9979